



みえ災害ボランティア支援センター (MVSC)

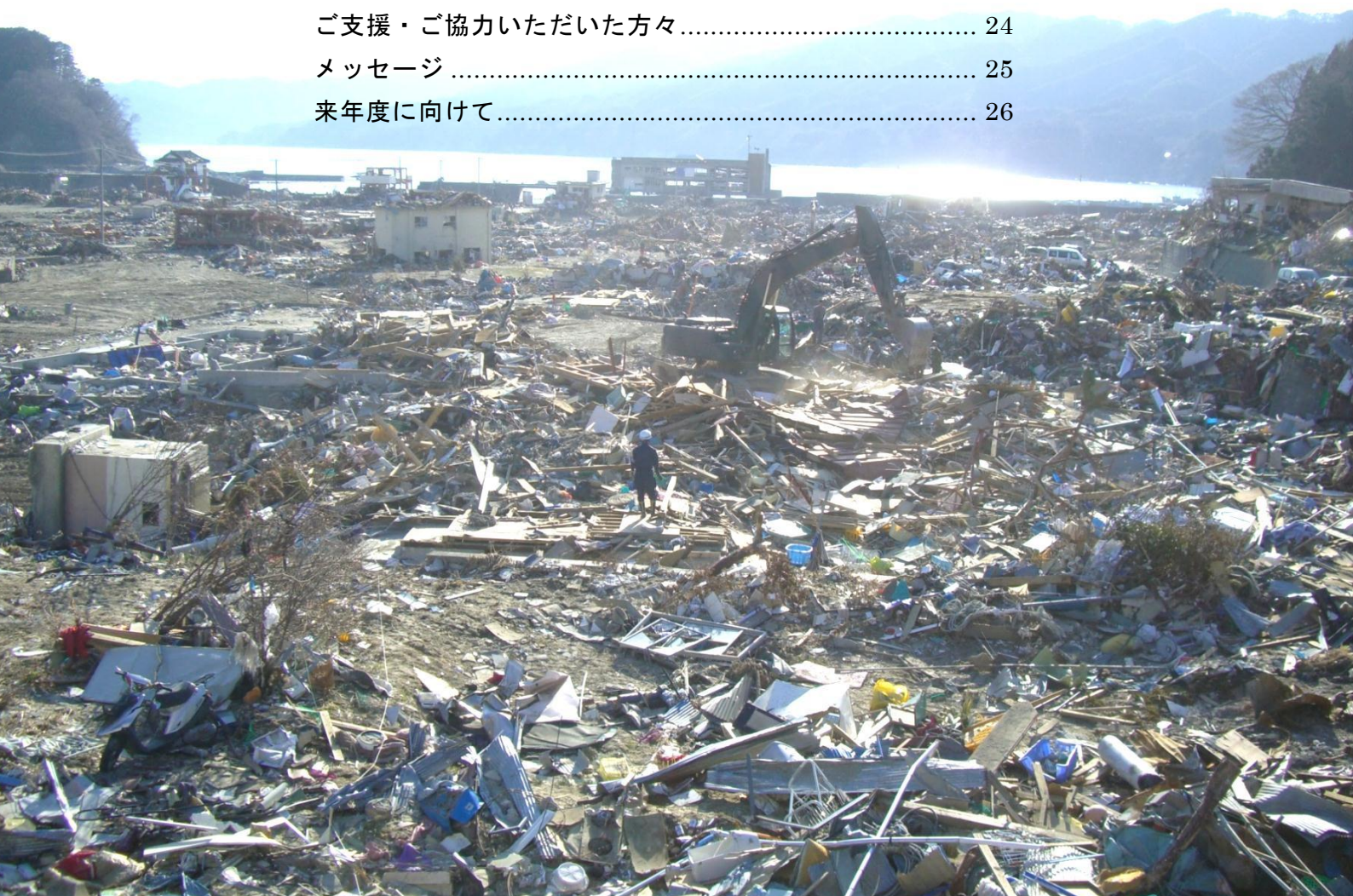
# 活動報告

2011. 3. 11 — 2012. 1. 31



## 目次

東日本大震災復興支援みえ宣言 .....	2
被害状況、山田町での活動に至るまで .....	3～4
活動カレンダー .....	5～6
みえ発！ボラパック	
* みえ発！ボラパックとは／事務局ボランティア .....	7
* ある日のボランティア活動 .....	8
* 運営支援ボランティア .....	9
* がれき撤去・清掃／物資仕分けなど .....	10
* 保育・教育施設支援／仮設風呂清掃 .....	11
* 安全確保への取り組み .....	12
* 参加者の傾向 .....	13
* ボラパックを終えて／物資支援 .....	14
その他の被災地支援活動 .....	15
山田町からの声 .....	16
県内避難者支援 みえで仲間をつくり隊！ .....	17
啓発活動 .....	18
みえ災害ボランティア支援センターについて .....	19～20
台風 12 号災害支援 .....	21～22
収支報告 .....	23
ご支援・ご協力いただいた方々 .....	24
メッセージ .....	25
来年度に向けて .....	26



# 東日本大震災 復興支援

## みえ宣言

2011年3月11日14時46分。千年に一度といわれる未曾有の巨大地震発生。

地震、そして津波による破壊のすさまじさは想定を遙かに超え、そしてそれに伴う複合的な被害。想像を絶する惨状を伝え聞きながら、私たちは茫然とするばかりでした。すぐにでも被災された方々のもとへ応援に駆けつけたいと思っても、それすらままならない現実。私たちは無力感、そして焦燥感の中で、それぞれが「できること」を考えました。

そして今、1ヶ月を経て、自衛隊や警察、消防、海上保安庁、ライフライン企業、土木関係者等の絶え間ない努力や海外からの様々な支援により、被災地域の生活基盤は一步ずつ復旧へと進んでいます。被災地域の皆さんの努力やいち早く被災地で活動された社会福祉協議会、NPO・NGO等支援組織の尽力により、復興に向けた取り組みが始まりつつあります。

震災。津波。被災後の生活。近い将来、東海・東南海・南海地震が連動して被害を受けると予測されている三重県にとって、とても他人事ではありません。

三重県民の皆さん、茫然自失の時は過ぎました。無事であった私たちにはできることがあるはず。被害を受けた方々に寄り添い、復旧・復興に向け、ともに歩み出す時が来たのです。

これから始まる長い復興への道。途中で息切れしてしまわぬよう、悲しみを乗り越え前に進めるよう、一人ひとりができる、さまざまな取り組みを結集して、被災された方々や被災地域を支えていきましょう。

私たちは、被災された方々が笑顔を取り戻し地域が復興するまで、息の長い支援活動を三重から展開することを宣言します。

**みんなのえがおがみたいから！ 今、三重から。**

2011年4月11日(東日本大震災から1ヶ月の日に)

「ほっとけやん・東日本」



代表発起人

三重県知事	野呂 昭彦 (当時)
三重大学長	内田 淳正
三重県商工会議所連合会長	竹林 武一
三重県商工会連合会長	藤田 正美
三重県共同募金会長	井村 正勝
みえ災害ボランティア支援センター長	山本 康史



**みえ宣言に賛同、署名いただいた方**

**1,767名 (2012年1月31日現在)**

# 東日本大震災 概要

(気象庁資料より作成)

平成 23 年 3 月 11 日 (金)  
14 時 46 分

震源 三陸沖 深さ 24 km  
規模 マグニチュード 9.0

同日 14 時 49 分  
津波警報 (大津波) 発表

## 津波の観測値 (検潮所)

		津波到達時刻	
・ えりも町庶野	最大波	15 : 44	3.5 m
・ 宮古	最大波	15 : 26	8.5 m 以上
・ 大船渡	最大波	15 : 18	8.0 m 以上
・ 釜石	最大波	15 : 21	4.2 m 以上
・ 石巻市鮎川	最大波	15 : 26	8.6 m 以上
・ 相馬	最大波	15 : 51	9.3 m 以上
・ 大洗	最大波	16 : 52	4.0 m

## 全国の被害状況

(2012 年 1 月 24 日 内閣府資料より作成)

死者	15,845 名	全壊	128,479 戸
行方不明者	3,375 名	半壊	242,513 戸
負傷者	5,894 名	一部破損	670,522 戸

全国の避難者数 337,819 名

※ 避難所のほか、親族・知人宅や公営住宅、  
仮設住宅等への入居者を含む

## 山田町の被害状況

(2012 年 1 月 30 日 山田町災害対策本部資料より作成)

死者	586 名	全壊	2,762 戸
行方不明者	157 名	大規模半壊	202 戸
		半壊	203 戸
応急仮設住宅	1,940 棟	一部損壊	190 戸

※ 避難所は 2011 年 8 月 31 日に全て閉鎖

※ 非住家は含まず



## 私たちが山田町を支援する理由

ボランティアを行う上で活動先の地域の方々と信頼関係を構築することが必要不可欠と考え、支援先は1か所に絞り込む事としました。

既に支援に入っている防災NPO仲間から情報収集すると共に、(1)首都圏から遠く、ボランティアが集まり難いと思われた (2)長期活動に適した無償の宿泊施設を確保できた (3)三重県東紀州と似たリアス式海岸の町で、復旧・復興の得がたい教訓を学べると考えられた (4)先遣隊調査により三重から支援できるニーズが見つかった などの理由から山田町を支援することとしました。

### 岩手県下閉伊郡山田町

いわてけん しもへいぐん やまだまち

岩手県下閉伊郡山田町はリアス式で有名な景勝地「三陸海岸（陸中海岸国立公園）」のほぼ中央に位置し、優美な自然環境に囲まれています。船越半島と重茂半島に抱かれた山田湾は内海で波も穏やかなのが特徴で、養殖や海水浴にも適しています。

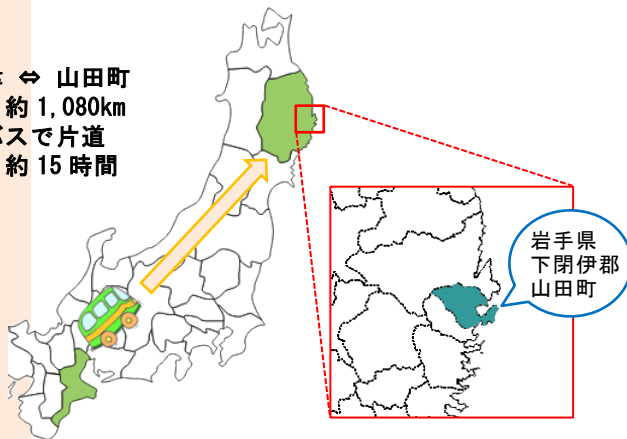
特産品：

牡蠣・ホタテ・アワビ

ウニ・ホヤ・鮭・マツタケ



津 ⇄ 山田町  
約 1,080km  
バスで片道  
約 15 時間



## 先遣隊



第1次先遣隊出発前の無線機チェック



山田町災害ボランティアセンターの様子



目まぐるしく変化する情報は付箋で対応

### 先遣隊の動き出し

4月1日	第1次先遣隊（7名）出発
4月8日	第2次先遣隊（7名）出発
4月20日	第3次先遣隊（3名）出発
4月27日	第4次先遣隊（先発隊 3名）出発
4月29日	第4次先遣隊（後発隊 2名）出発

## 先遣隊の声

何かしたいという強い気持ちから参加したものの、経験もスキルもない素人がボラセン立ち上げ直後の被災地へ行って大丈夫なのか、逆に迷惑なのでは…不安な気持ちのまま現地入りし、日ごとに変わっていく現場の状況に無力さを痛感しました。

それでも参加できたことの重さはひしひしと感じました。ニュースやネットでは伝わらない大切なことが山ほどありました。より多くの人がこの震災に関わるからこそがなにより大切だと思います。

第2次先遣隊 近藤 あゆみ さん

# 活動カレンダー

2011.3.11～2012.1.31

日付	項目	
3月11日	発災	14時46分ごろ 三陸沖を震源に国内観測史上最大のM9.0の地震が発生
3月11日	幹事会(臨時)	16名参加
3月14日	幹事会(臨時)	43名参加 センター設置決定
3月14日	情報発信	ホームページ運営開始
3月17日	幹事会	11名出席
3月22日	幹事会(全体会)	64名参加
3月24日	幹事会	10名出席
3月26日		事務局をアスト津3階へ設営
3月27日	先遣隊	派遣に向けて打ち合わせ
3月30日	幹事会	11名出席
4月1日	先遣隊	第1次 7名出発(～4月5日)
4月1日	幹事会	13名出席
4月5日		活動支援金 募集開始
4月5日		事務局ボランティア 募集開始
4月7日		一般ボランティア登録 募集開始
4月8日	幹事会	12名出席
4月8日	先遣隊	第2次 7名出発(5名～4月11日 2名～4月23日)
4月11日	緊急集会	私たちにできることを考える緊急集会・みえ(178名参加) 東日本大震災復興支援みえ宣言
4月15日	幹事会	13名出席
4月16日	ボランティア集会	事務局ボランティア対象
4月19日	ボラバック	第1便～第5便 募集開始
4月20日	先遣隊	第3次 3名出発(～5月1日)
4月20日	情報発信	みえボラ新聞 第1号発行
4月22日	幹事会	13名出席
4月24日	ボラバック	第1・2便 説明会
4月27日	先遣隊	第4次[先発] 3名出発(～5月5日)
4月27日	出張(視察・調整等)	山田町(山本 ～5月6日)
4月28日	幹事会	11名出席
4月28日	ボラバック	第1便出発 20名参加(～5月4日) 県庁にて出発式
4月28日	情報発信	みえボラ新聞 第2号発行
4月29日	先遣隊	第4次[後発] 2名出発(～5月8日)
5月1日	職員雇用	4名雇用(事務局3名、現地1名) 事務局新体制開始
5月2日	ボラバック	第2便出発 23名参加(～5月8日)
5月3日	ボラバック	第3便 説明会
5月6日	ボラバック	第3便出発 32名参加(～5月15日)
5月6日	情報発信	みえボラ新聞 第3号発行
5月9日	幹事会	10名出席
5月10日	ボラバック	第4便 説明会
5月11日	ボラバック	第6便～第10便 募集開始
5月13日	情報発信	ニュースメール配信開始(不定期)
5月13日	ボラバック	第4便出発 37名参加(～5月22日)
5月14日	思いで戻し隊	四日市市内にて事前講習会
5月14日	思いで戻し隊	県内19団体が実施(～1月27日)
5月15日	情報発信	ホームページをmvsc.jpへ移行
5月17日	ボラバック	第5便 説明会
5月20日	ボラバック	第5便出発 30名参加(～5月29日)
5月21日	ボラバック	第6便 説明会
5月25日	情報発信	ツイッター事務局アカウント開設
5月27日	ボラバック	第6便出発 19名参加(～6月4日)
5月28日	東日本大震災座談会	第1回開催 31名参加
5月28日	ボラバック	第7便 説明会
5月30日	幹事会	10名出席

6月3日	ボラバック	第11便～第19便 募集開始
6月4日	ボラバック	第7便出発 20名参加(～6月11日)
6月4日	ボラバック	第8便 説明会
6月9日	出張(視察・調整等)	山田町(森本 ～6月11日)
6月11日	ボラバック	第8便出発 21名参加(～6月18日)
6月11日	ボラバック	第9便 説明会
6月11日	情報発信	みえボラ新聞 第4号発行
6月11日	出張(視察・調整等)	山田町(山本 ～6月14日、 若林 6月12日～14日)
6月16日	県内避難者支援	第1回会議 12名出席
6月17日	幹事会	13名出席
6月18日	ボラバック	第9便出発 23名参加(～6月25日)
6月18日	ボラバック	第10便 説明会
6月23日	県内避難者支援	第2回会議 11名出席
6月25日	ボラバック	第10便出発 21名参加(～7月2日)
6月25日	東日本大震災座談会	第2回開催 26名参加
6月25日	ボラバック	第11～13便 説明会
6月29日	ボラバック	安全管理ビデオ会議 14名出席
6月30日	職員退職	2名退職(事務局1名、現地1名)
6月30日	ボラバック	第11便出発 20名参加(～7月6日)
6月30日	県内避難者支援	第3回会議(みえで仲間をつくり隊に 名称変更) 10名出席
7月2日	ボラバック	第12便・13便 説明会
7月4日	幹事会	9名出席
7月4日	ボラバック	第12便出発 20名参加(～7月10日)
7月6日	職員雇用	2名雇用(事務局)
7月7日	みえで仲間をつくり隊	第4回会議 13名出席
7月8日	ボラバック	第13便出発 10名参加(～7月14日)
7月8日	ボラバック	第20便 募集開始
7月9日	ボラバック	第14～16便 説明会
7月11日	事務局会議	第1回
7月12日	ボラバック	第14便出発 16名参加(～7月18日)
7月15日	みえで仲間をつくり隊	第5回会議 14名出席
7月15日	ボラバック	安全管理ビデオ撮影(御殿場海岸) 7名参加
7月16日	ボラバック	第15便出発 14名参加(～7月21日)
7月17日	情報発信	みえボラ新聞 第5号発行
7月17日	ボラバック	第16便 追加説明会
7月18日	みえで仲間をつくり隊	第1回座談会 開催(津)
7月19日	ボラバック	第21便～第26便 募集開始
7月21日	ボラバック	第17～19便 説明会
7月21日	ボラバック	第16便出発 13名参加(～7月26日)
7月22日	幹事会	11名出席
7月24日	ボラバック	第17便出発 20名参加(～7月30日)
7月24日	出張(視察・調整等)	山田町(若林・番家 ～7月26日、 山本 ～7月28日)
7月28日	ボラバック	第20便 説明会
7月28日	ボラバック	第18便出発 13名参加(～8月3日)
7月28日	事務局会議	第2回
7月30日	ボラバック	第20便 説明会
8月1日	出張(打ち合わせ等)	東京(山本)
8月1日	現地職員雇用	1名雇用(山田町商工会内)
8月1日	ボラバック	第19便出発 22名参加(～8月7日)
8月2日	みえで仲間をつくり隊	第6回会議 17名出席
8月5日	ボラバック	第20便出発 16名参加(～8月11日)
8月6日	出張(視察等)	女川町(山畑 ～8月8日)
8月6日	東日本大震災座談会	第3回 開催 24名参加
8月7日	みえで仲間をつくり隊	第2回 座談会開催(伊勢)
8月8日	幹事会	12名出席
8月8日	出張(視察・調整等)	山田町(森本 ～8月11日)
8月11日	みえで仲間をつくり隊	第7回会議 16名出席
8月12日	ボラバック	第21・22便 説明会
8月16日	事務局会議	第3回
8月16日	職員雇用	1名雇用(事務局)
8月17日	情報発信	みえボラ新聞 第6号発行
8月17日	ボラバック	第21便出発 20名参加(～8月23日)
8月17日	ボラバック	第27便～第33便 募集開始

8月18日	出張(視察・調整等)	山田町(山本・若林 ~8月20日)
8月19日	みえ現地事務所	トレーラーハウス設置
8月20日	ボラパック	第23・24便 説明会
8月20日	出張(視察・調整等)	山田町(山畑 ~8月22日)
8月21日	ボラパック	第22便出発 14名参加(~8月27日)
8月25日	ボラパック	第23便出発 21名参加(~8月31日)
8月25日	みえで仲間をつくり隊	第8回会議 17名出席
8月27日	みえで仲間をつくり隊	第3回 座談会開催(鈴鹿)
8月28日	ボラパック	第25・26便 説明会
8月29日	ボラパック	第24便出発 16名参加(~9月4日)
8月29日	事務局会議	第4回
8月29日	幹事会	10名出席
9月2日	ボラパック	第25便出発 19名参加(~9月8日)
9月4日	出張(視察・調整等)	山田町(若林・番家 ~9月6日)
9月4日	発災	台風12号接近に伴う大雨の影響で紀伊半島を中心に被害が発生
9月4日	ボラパック	第27便 説明会
9月5日	幹事会(臨時)	台風12号東紀州災害対策会議
9月6日	ボラパック	第26便出発 17名参加(~9月12日)
9月6日	幹事会	17名出席
9月6日	みえで仲間をつくり隊	第9回会議 13名出席
9月7日	出張(視察・調整等)	山田町(森本・坂井 ~9月9日、松岡 ~9月12日)
9月7日	現地職員雇用	1名雇用(山田町観光協会内)
9月10日	ボラパック	第27便出発 10名参加(~9月17日)
9月10日	ボラパック	第28便 説明会
9月10日	出張(視察・調整等)	熊野市、紀宝町(山本 ~9月11日、山畑)
9月11日	東日本大震災支援シンポジウム	東紀州地域の台風12号災害支援活動対応により中止
9月12日	幹事会(臨時)	19名出席
9月13日	事務局会議	第5回
9月14日	東紀州ボラパック	第1便 41名参加
9月15日	出張(視察・調整等)	山田町(坂井 ~9月19日)
9月15日	幹事会	8名出席
9月15日	東紀州ボラパック	第2便 66名参加
9月16日	東紀州ボラパック	第3便 77名参加
9月17日	情報発信	ツイッター 山田町スタッフアカウント開設
9月17日	ボラパック	第28便出発 16名参加(~9月24日)
9月17日	出張(視察・調整等)	熊野市、紀宝町(山本 ~9月19日)
9月18日	ボラパック	第29便 説明会
9月20日	幹事会	7名出席
9月20日	東紀州ボラパック	第4便 台風接近のため中止
9月21日	事務局会議	臨時
9月21日	東紀州ボラパック	第5便 台風接近のため中止
9月22日	東紀州ボラパック	第6便 24名参加
9月22日	出張(視察・調整等)	山田町(松岡 ~10月3日)
9月23日	東紀州ボラパック	第7便 36名参加
9月24日	東紀州ボラパック	第8便 53名参加
9月24日	ボラパック	第29便出発 16名参加(~10月1日)
9月25日	東紀州ボラパック	第9便 31名参加
9月25日	ボラパック	第30便 説明会
9月25日	出張(イベント出展)	志摩市(坂井)
9月26日	幹事会(臨時)	10名出席
9月26日	東紀州ボラパック	第10便 12名参加
9月27日	東紀州ボラパック	第11便 11名参加
9月27日	みえで仲間をつくり隊	第10回会議 11名出席
9月28日	東紀州ボラパック	第12便 20名参加
9月29日	東紀州ボラパック	第13便 40名参加
9月30日	東紀州ボラパック	第14便 37名参加
10月1日	出張(視察・調整等)	熊野市、紀宝町(山畑)
10月1日	東紀州ボラパック	第15便 16名参加
10月1日	ボラパック	第30便出発 15名参加(~10月8日)
10月2日	東紀州ボラパック	第16便 32名参加
10月2日	ボラパック	第31便 説明会
10月3日	幹事会	10名出席

10月5日	事務局会議	第6回
10月5日	出張(視察・調整等)	山田町(若林 ~10月8日、松岡 ~10月11日)
10月7日	東紀州ボラパック	第17便出発 20名参加(~10月9日)
10月8日	ボラパック	第31便出発 12名参加(~10月15日)
10月9日	ボラパック	第32便 説明会
10月12日	みえで仲間をつくり隊	第11回会議 14名出席
10月12日	ボラパック	第34便~第36便 募集開始
10月13日	出張(視察・調整等)	山田町(坂井 ~10月17日)
10月13日	幹事会	8名出席
10月14日	東日本大震災座談会	参加者数減少および台風12号災害支援活動のため中止
10月14日	東紀州ボラパック	第18便出発 17名参加(~10月16日)
10月15日	ボラパック	第32便出発 17名参加(~10月22日)
10月16日	ボラパック	第33便 説明会
10月20日	出張(視察・調整等)	山田町(松岡 ~10月25日)
10月21日	出張(打ち合わせ等)	津市(外館 ~10月23日)
10月22日	東紀州ボラパック	第19便 現地状況により運行中止
10月22日	ボラパック	第33便出発 13名参加(~10月29日)
10月23日	ボラパック	第34便 説明会
10月25日	事務局会議	第7回
10月25日	みえで仲間をつくり隊	第12回会議 11名出席
10月27日	出張(視察・調整等)	山田町(松岡 ~11月1日)
10月29日	みえで仲間をつくり隊	第4回 しゃべり隊開催(津)
10月29日	ボラパック	第34便出発 10名参加(~11月5日)
10月30日	ボラパック	第35便 説明会
10月31日	幹事会	10名出席
10月31日	情報発信	みえボラ新聞 第7号発行
11月2日	出張(説明会)	いなべ市(若林・森本・山畑)
11月5日	ボラパック	第35便出発 8名参加(~11月12日)
11月5日	ボラパックII	第1便 7名出発(~11月8日)
11月5日	出張(視察・調整等)	山田町(森本 ~11月14日、松岡 ~11月8日)
11月6日	ボラパック	第36便 説明会
11月9日	みえで仲間をつくり隊	第13回会議 12名出席
11月10日	出張(視察・調整等)	山田町(山本 ~11月12日)
11月12日	ボラパック	第36便出発 14名参加(~11月19日)
11月15日	事務局会議	第8回
11月17日	出張(視察・調整等)	山田町(松岡 ~11月21日)
11月17日	幹事会	9名出席
11月20日	みえで仲間をつくり隊	第1回 楽しみ隊開催(多気)
11月22日	みえで仲間をつくり隊	第14回会議 10名出席
12月2日	出張(打ち合わせ等)	津市(佐藤・外館 ~12月4日)
12月2日	健さんを囲み隊	ホテルグリーンパーク津 100名参加
12月12日	事務局会議	第9回
12月12日	出張(視察・調整等)	山田町(松岡 ~12月18日)
12月14日	みえで仲間をつくり隊	第15回会議 18名出席
12月15日	幹事会	9名出席
12月17日	みえで仲間をつくり隊	第5回 しゃべり隊開催(津)
12月18日	出張(視察・調整等)	山田町(山本・若林・森本 ~12月20日)
12月25日	事務局会議	臨時
12月27日	みえで仲間をつくり隊	第16回会議 20名出席
12月28日	ではってマップ	第1号 発行
1月6日	みえで仲間をつくり隊	コア会議 6名参加
1月7日	出張(写真展等)	津市(佐藤 ~1月10日)
1月8日	東日本大震災写真展	アスト津3階にて(~1月22日)
1月10日	事務局会議	第10回
1月11日	事務局会議	臨時
1月11日	みえで仲間をつくり隊	第17回会議 11名出席
1月13日	幹事会	9名出席
1月17日	出張(視察・調整等)	山田町(松岡 ~1月21日)
1月24日	みえで仲間をつくり隊	第18回会議 13名出席
1月26日	出張(視察・調整等)	山田町(山本・若林 ~1月28日)
1月30日	事務局会議	第11回
1月30日	出張(視察・調整等)	山田町(森本 ~2月1日)

# みえ発!ボラパックとは?



「少しでも被災地の方々の力になりたい! 現地へ行ってボランティア活動をした!」と考える方々に対し、費用の負担やさまざまな不安を軽減し、一人でも多くの方が現地で活動していくためのボランティアバスツアーです。

週に1便程度のペースで、三重県津市から岩手県山田町に向けての片道約15時間の道のりをバスで運行しました。発災後、先遣隊メンバーが真っ先に現地入りし、第1~4次隊まで、ボラパックの運行のための調整を担いました。その後、4月下旬よりボラパック第1便が山田町に入り、11月中旬の第36便まで続けました。各便、約10~30名、老若男女のメンバーがひとつのチームとなり、参加者の中から選出したリーダー・サブリーダーを中心に約1週間の行程で活動しました。現地では、三重のボランティア=「みえボラ」の愛称で呼ばれていました。

## 【みえ発!ボラパック】バスに乗る前に・・・

被災地でボランティアする上で最も重要な「心構え」として、当センターからお願いしていた5つのポイント

- (1) 復旧や復興の主役は被災された方であり、それをサポートする存在(黒子)であることを自覚する。
- (2) 何事も自己責任・自己完結を原則とし、被災された方・被災地に負担をかけない。
- (3) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避ける。
- (4) 危険がともなうことや重労働となる場合があるため、自分自身で安全や健康を管理する。
- (5) 一人ひとりがチームの一員であることを念頭におき、単独行動を避ける。

### 【心構え】

ボラパック参加にあたり、事前説明会の出席を必須条件としました。日々移り変わる現地の状況、参加するための準備・心構え、安全管理などを共有した上で出発に備えていただきました。帰着した参加者の声から、過去の参加者を交えてのグループディスカッションや、土のう袋講習、携行品展示など、項目を追加し内容の充実にも努めました。また、リーダー・サブリーダーをいつ決めていたのかという、実はこの説明会が鍵であり、聞き入る様子や質問内容などを参考に選出していました。

### 【説明会】



## 事務局ボランティア

現地に行けなくても三重でできるボランティアとして、活躍してくれた事務局ボランティアの皆さん。【みえ発!ボラパック】の最も心強いサポーターであり、長期にわたりボラパックを運行できたのは、陰ながら支えていただいていた皆さんのおかげです。

週に1回程度で行われていた説明会は、設営準備から司会進行・説明までお手伝いいただき、参加前の緊張や不安をほぐす重要な役割を担っていただきました。ボラパックの出発・帰着時には、配布する資料作りや受付などをお手伝いいただき、毎度の温かいお見送りとお迎えはボラパックメンバーの大きな励みでした。そして、ボラパック帰着と同時に帰ってくるビブス(ユニフォーム)を自宅に持ち帰り、活動中の汗や汚れを綺麗に洗濯して落としていただいたおかげで、後続便に気持ち良く引き継ぎできました。



事務局ボランティア登録者数 **143** 人



事務局ボランティア 吉村敦子さん

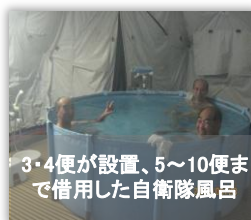
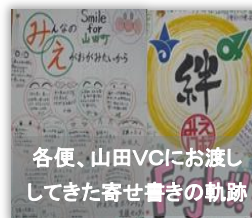
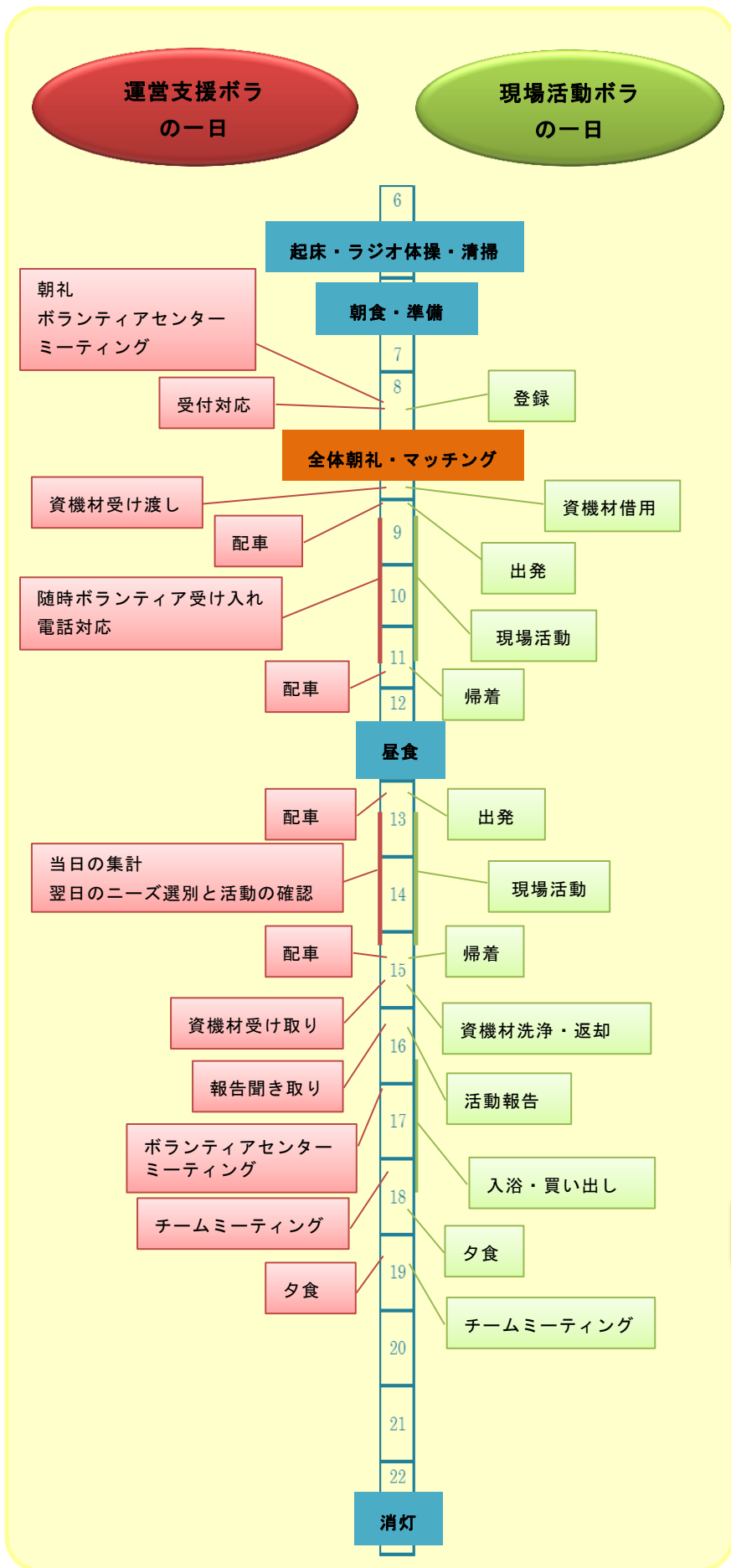


ボラパックの募集当初は希望者が定員をはるかに上まり、多くの方にお断りの電話をしなくてはなりません。行ける方、行けない方、どちらの想いも山田町に届けたい生の声でした。説明会の資料作り、説明会当日の準備、ボラバスのお見送り、お迎え、事務局訪問者の対応、電話対応、等々。みえボラのビブスの洗濯のお手伝いもしました。春頃は粉塵の汚れで水は真っ黒で、徐々にビブスから出る水はきれいになりましたが、参加者の汗にまみれた作業を感じる季節となり、「炎天下でこのビブスの人は体調大丈夫だったかな」と一人思った暑い日々が続きました。ビブスに貼られた「山田町ボラセン」シールのはがし後に残った「のり」はなかなか手強く、一緒にボランティアに参加している娘と除光液片手に悪戦苦闘。最後の仕上げは荷造りテープで丁寧に取り付けて完成! 私のほんの少しのボランティアが、復興へ近づくと一瞬として参加させて頂けたとしたらとてもうれしく思います。



# ある日のボランティア活動

山田町でのボランティアの一日を運営側・現場側のそれぞれの視点でご紹介します。もちろんボランティア活動が中心の毎日ですが、チームで生活する上での様々な規則、毎晩欠かせないチームミーティングや、メンバーとの楽しい時間も思い出の一つ。各便に様々なカラーがあり、季節や状況が日々変動する環境の中での活動でした。ボランティアの生活に密着して、第1~36便を振り返ります。



## ボラの食事を紹介!



昼食はたけなわさんのおにぎり



夕食はシンコーさんのお弁当



日替わり弁当は楽しみのひとつ♪



(※朝食は持参)

今日も1日おつかれ様でした。

毎食VCスタッフさんからの労いの書き置きに感謝!

# 運営支援ボランティア

三重県から最初に現地入りした先遣隊より、【みえ発！ボラパック】の第1便～第4便まで、山田町災害ボランティアセンターの立ち上げ・運営に関わる支援活動を行いました。山田町社協、長野県・静岡県社協からのブロック派遣の皆さんと共に、現地で不足していた人員をカバーしました。山田町災害ボランティアセンターの運営は、主に6つの部署に分かれて作業を分担し、様々な改良を繰り返しながら形づくられました。また5便以降も、人員不足を補うため、配車班のみ継続で作業を担当しました。



4月下旬に山田町に入り活動させて頂きました。そこで感じたのはみえボラのメンバーも、日本中から活動に来る人も、皆大変な思いをしている人の為に何かしたいという熱い“想い”を持って集まってきている事実でした。私はその想いに希望を貰い、考え方そのものを変えて頂いた気がします。昨今、人と人の繋がりが失われている、他人の痛みがわからないという内容の新聞記事を目にしますが、この国には誰かの為に行動できる人、思いやりや情を失っていない人が沢山居るという確信が、私の胸に宿りました。私はこの想いを周囲の人に伝えていきたいと思っています。



先遣隊第4次～ボラパック第2便  
青直樹さん

事前説明会でセンター長の「ガレキは財産。ゴミは思い出。大切に。」を胸に刻み、夜明けの高速最終インターから雪降る山を幾つか越え、やっと山田町。緑がない。人がいない。車や堤防までもが360°ひっくり返り、時間が止まったままの現実に、1便は絶句した。『何を「頑張れ」と言うの？早く手伝いに来て！』と叫びそう。模索しながら、毎夜ミーティングで熱い思いを語り合う。翌朝、全国から応援に来たボラを受け入れ“人って温かくて強いんだ”と感じ、また気力がわいた。



第1便 谷川順子さん

5月7日早朝山田町に到着。VC横の桜は満開、しかし車中から町並みを見て来た為か心は大きなダメージで打ちのめされていた。運営業務と聞かされたけれど、具体内容は白紙。本来熟練者が担う、人と人のコーディネート。限られた時間の中、教える側、教えられる側も必死に取り組むものの十分理解出来る迄に至らなかった。それでも現実には止まる事なく動いている。「みえの責任」は重い。混乱、困惑の中で戦が始まった。このドタバタに歯止めをかけることも3便のもう一つの役割だ！前便までに残したものをベースにマニュアル作成、定例会議の制定、運営業務の改善。全員が夜を徹した苦勞の分だけ、「礎」を創った達成感と、「絆」を御褒美に三重への帰路に。



第3・11・28便 岡田義昭さん



## 個人敷地内のがれき撤去・清掃



現場作業を中心の活動を行なった【みえ発！ボラパック】第5便から最終便の第36便まで、最も多く、長期にわたったニーズは、重機による撤去が終わった後の個人敷地内の清掃作業でした。釘の踏み抜きやガラス片などの危険の恐れが多い中、人によっては慣れない資機材を使用し、必要に応じて極め細やかな手作業を行ない、依頼主さんと相談しながら作業を進めました。一概に敷地内の清掃と言っても、時期・季節が変わるごとに、作業内容は大きく変動しました。春頃多くあった食器洗いや家具洗浄・側溝の泥かきのニーズでは、依頼主の方々との共同作業で話に花が咲き、梅雨の時期には、続く悪天候のため雨に打たれ、時に台風の中での作業もありました。少しずつ暖かくなると、衛生面の悪化による虫の異常増殖とも闘い、夏には、高々と生えそろうた草を刈ってからの清掃作業となりました。秋になり、東北の寒暖差の激しさを実感する中、海風からの寒波と流れる汗の差異に苦しめられながらの作業となりました。日々流転する作業の中でも全便を通し、依頼主さんとの触れ合いはボランティアの楽しみであり、山田町の方々の温かさを感じるひとときでした。有り難い差し入れに感謝し、労いと感謝の言葉にまた、力をもらい、充実感に満たされました。説明会での引き継ぎ等の効果もあり、「みえのボランティアさんは良い仕事をする」と、山田町の方々にお墨付きをいただき、喜ばしいオレンジビブスの足跡が確かに山田町に残っています。

8月の盆明け、依頼主さんから頼まれた家財の片付けをさせてもらった時、チームの若者が見つけたのは卒業証書の筒でした。私と作業班長で依頼主さんに確認してもらったところ、知人の証書だと知らされました。そのときの依頼主さんの目を潤ませたほっとしたような優しい表情を、共有したひとときの記憶を、私は一生忘れません。このような山田町での経験が、私やチームの若者たちの心の中の何かを変えていきました。遠く三重から今も絆を強く感じる山田町のできごとでした。



第21便 樋口裕康さん

## 物資の仕分け・配布・搬入



想像以上に人手も時間も掛かる作業でした。搬入作業では、様々な形態の物資、時に20キロを超える物資もあり、男女問わず重労働の活動を各便のチームワークで乗り切りました。また、仮設住宅まわりは地理不案内の配車係が苦戦した活動でもありました。

【みえ発！ボラパック】では全便を通して、細かい仕分けから避難所でのお弁当や物資の配布・仮設住宅への搬入など、支援物資が山田町の皆さんの手に渡るまでに関わる作業を行いました。全国各地から届けられた支援物資を一刻も早くお手元に届けたいと願っても、物資倉庫に集められた無数の支援物資の山は仕分けするだけでも



### ボラパック参加者の声、その後

東北地方に多い佐々木の姓が気になっていました。活動に出向いたお宅が偶然にも佐々木さん、初対面なのに話が弾みました。帰着した後、孫が2人増えたとホットな知らせも届きました。思ってもみなかった東北に知り合いが出来たのです。それも大好きな山田町に。

眠れぬ日が続き、不安を抱えての出発でしたが、ボラパックに参加して山田町に行けたことはかけがえのない経験でした。そして、一日も早い東北の復旧復興を祈っております。

(第8便 佐々木史子さん)

未曾有の災害を肌で感じ、眼で見て勉強する事が目的で参加したが、現地で見えたものは、基礎のみの住宅、支援物資の山、家族で住むには狭すぎる仮設住宅。正直ショックは大きく、見るのも辛く感じた。どんな綺麗事を言っても一週間の期間限定の活動、少しばかり手伝っただけの現実。そんな僕たちに、山田町の方々は笑顔で接してくれ、何度も感謝の言葉を言ってくれた。人って素晴らしいと思った。

僕は形ないけどかけがえのないものを得た。それは人の心の温かみ。一生心に残る思い出になった。参加出来て良かった。

(第15・33便 堀彰さん)

短い時間であったがテレビとは違う「現実」に向き合った。バスが山田町に入ったとき、何の言葉も出なかった。これが本当の衝撃なのだろう。僕の活動なんてちっぽけなものだった。

山田町での活動後、自分の置かれている境遇と何をすべきかを考えている。大きなことができないというじれったさや虚脱感もある。山田町が今、自分に必要なものを考えさせてくれるきっかけとなったことは確かだ。あの日の衝撃は半年経った今でも続いているし、消したくない。

(第17便 伊藤大輔さん)

山田町の皆様、お元気ですか。テレビから送られてくる情報ではなく、直接山田町に赴き、自分の目で見て、又お話を聞くことで、客観的ではなく、より自分たちの問題として震災を捉えるようになりました。自分自身の震災に対する捉え方の変化は、人と人との繋がりが、『絆』を感じることができたからだと思います。私たちが山田町を出発する頃、復興かき小屋がオープンしました。山田町の明日へ進む一歩を強く感じました。山田町の復旧・復興を心から願います。次回は、是非かき小屋を訪れたいです。

(第33便 草川千恵子さん)

# 保育・教育施設支援

【みえ発！ボラパック】の活動中、山田町で特に深い関わりを持った場所である保育・教育施設。

第5便～第24便まで、避難所となっていた織笠保育園での活動はほぼ毎日あり、調理補助を中心に、8月末の避難所撤去作業までお手伝いしました。先生方の優しさに感謝、笑顔に元気をいただいていた活動の日々でした。その他、お子さんと触れ合う活動は数多く、便によっては避難所でのこどもの遊び相手もあるなど、様々な団体や施設の支援をしました。

そして、みえボラ継続ニーズとして第23便～第36便まで活動した「えほんの読み聞かせ」。山田町内全11ヶ所の保育園・幼稚園、青少年の家を仮校舎としている2校の小学校を訪ね、絵本の読み聞かせを中心としたお遊戯を行ないました。第23便のメンバー寺坂さんの発案によりスタートしたこの活動は、経験の有無を問わず担当し、便を重ねる毎に試行錯誤と改良を繰り返しました。前便からの引継事項を照合し、前日の夜は遅くまでダンスや歌・手遊びなどを含め、メンバー全員で予行練習をして活動に挑みました。先生方に温かく迎えられ、子どもたちに助けられ、笑顔の尽きることない空間で有意義な活動となりました。

あの日の衝撃は、遠く離れた私達にも大きなダメージをもたらし、何かしなければとざわつく心を静めることができませんでした。そこで「被災地に本をおくる会」を3月末に立ち上げ、すぐに現地に行けない私の願いを本に託しました。でも、いつかは自分で本を届け、子ども達の笑顔にふれたいと思っていました。その夢をみえボラで叶えて下さり、最後まで読み聞かせを継続して頂いたこと、本当に嬉しく思います。素直で元気な山田町の子ども達に出会えてよかった、あの子達の未来に幸あれと心から祈っています。

第23便 寺坂典子さん



活動中、被災した2つの小学校が9月まで合同の仮校舎で学習していたが、1校が元の場所に戻ったため、備品移動をお手伝いすることになった。驚いたのは、体育館の1/4が職員室と図書館として使用されていたこと。苦労されていたことが一目でわかった。

移動・整理後、集会が始まり、先生と小学生達から私達にお礼の言葉をいただいた。胸がいっぱいになった。

第28便 吉田尚代さん



みえボラの皆さまとのつながりは非常に印象深かったと思っています。園児たちは意外に積極的に話したり、遊んだり、絵本の読み聞かせなどを楽しみ、生活発表会の劇遊び「おむすびころりん」では心の底から素直に笑っていると感じました。皆さまと子どもたちが歌った「にじ」「どんといこうぜ」「手のひらを太陽に」で心をひとつにして一緒に手をつないで歌ったあの光景は今も思い出すと涙がこみ上げてきます。無邪気な子どもたちが元気に歌い、健康で優しくすくすくと育つことが皆さまへの恩返しと思い、これからも頑張っています。

本当にありがとうございました。

わかき保育園 柏谷千代子園長先生



【みえ発！ボラパック】第36便では、なんと全日程が「えほんの読み聞かせ」活動の予定で埋まっていた。最後の訪問日には、各園から手作りのプレゼントをいただきました。園によって伺った回数はそれぞれですが、各便がつないだ想いの結晶をずっしり感じ、ありがたく頂戴しました。これまでの参加者の皆さんの手にも渡り、触れ合った園児の笑顔と温かく迎えて下さった先生方に、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。いただいたプレゼントは当センターの宝物となって、事務局に飾られています。



# 仮設風呂清掃



第13便～第24便まで、避難所であった山田高等学校の仮設風呂の清掃を行いました。8月末に避難所が終了となり撤去されるまで、みえボラ継続ニーズとして活動しました。湿気と熱気がこもりやすい夏場のお風呂場ですが、入浴する皆さんが気持ちよく利用していただけるよう、毎日精一杯清掃しました。複雑な手順や作業が多く、次便への引継ぎが難題であったため、各便ごとに写真やイラストを用いた詳細なマニュアルを制作し、試行錯誤しました。



【山田町の皆さんへ】山田町の皆さんは、私達を温かく迎えて下さいました。保育園のこども達はすごく元気な笑顔が印象的で、一瞬被災されている事を忘れる程でしたが、震災時の話を聞いて改めて心が痛みました。活動を通し、学び、感じ、逆に多くものを得ました！今回できたことは小さかったけれど、今後も手助けができればと思います！（第34便 長谷川哲夫さん）

# 安全確保への取り組み

## ■ ノロウイルス対応

ボラパック第4便が活動していた5月19日、同じく山田町で活動中の他県のボランティア1名からノロウイルスが検出されました。それに伴い、山田町災害ボランティアセンターおよびボランティア宿泊施設（武道場）は、消毒作業等のため21～23日の3日間閉鎖することとなりました。当センターがその連絡を受けたのは、20日にボラパック第5便を山田町へ送り出した直後でした。ボランティアから被災地の方々への感染拡大を防ぐことを最優先とし、医療関係の方々からのアドバイスを受けて対応しました。急な予定変更となりましたが、第4便5便の休憩・宿泊所や移動のバスの手配、第5便の気仙沼での活動のコーディネートなど、多くの関係各所からご協力をいただきました。

## ■ 津波警報・注意報発令による避難

未曾有の大地震により、現地では余震が頻繁にあります。活動中のいつ何時津波警報・注意報が発令されるかわかりません。当センターでは、震度5弱以上の余震が発生もしくは津波警報・注意報が発令された場合、直ちに現地のリーダー・サブリーダーと連絡を取り、避難を確認するとともに参加者全員の安否確認を行うこととし、これらの情報はツイッターやホームページ等で報告させていただきました。



### ◆第9便 6月23日 6:51

岩手県沖でのM6.7、震源の深さ20kmの地震による津波注意報発令  
(山田町八幡町での震度4)

### ◆第13便 7月10日 9:57

三陸沖でのM7.1、震源の深さ10kmの地震による津波注意報発令  
(山田町八幡町での震度2)

## ■ 台風接近による日程変更

台風接近とバス移動日が重なりそうな場合、参加者の安全を第一に考え、バスの行程・ルート、活動日程を変更して安全を確保しました。

◆台風6号 第15便 現地活動日程を1日繰り上げ、7月20日に山田町を出発（台風が東北地方へ接近する前に出発）

第16便 出発日を1日遅らせた7月21日に出発（台風が三重県を過ぎた後に津を出発）

◆台風12号 第25便 9月2日の津出発時間を午後から午前に変更（台風が三重に接近する前に出発）

## ■ 安全管理マニュアルDVD作成

【みえ発！ボラパック】ではボランティア活動中だけでなく、また活動以外でも「怪我・病気・事故」等、様々なことがありました。大きな怪我をされて数針縫った方もいらっしゃいます。そのような事故を未然に防ぐため、ボラパック経験者の有志が集まり、自分たちの災害ボランティア経験に基づく「安全管理マニュアルDVD」が作成されました。

作成されたDVDは、山田町へ向かうバスの中で参加者の方々に見ていただき、災害ボランティア活動経験のない方でも「安全な作業方法」「道具の正しい使い方」などを簡単に学ぶことが可能となりました。



## ■ その他、安全確保への取り組み

※出発前の事前説明会にて「安全衛生」に関する説明

※チーム内の健康管理のため、安全衛生係の設置

※各活動先に持って行くための応急箱の準備

※安全衛生に関するリーフレットの作成と配布（右のイラスト）

※メンバーの怪我や病気を「健康管理記録票」により報告

※活動中の「ヒヤリ」としたことや「ハッ」としたことを「ヒヤリハット報告書」で共有



【山田町の皆さんへ】震災が起きなければ行く事も知る事もなかったであろう山田町。きっかけが震災というのは悲しいけど、自分の故郷・地元に近いで今は第3の故郷と言っても過言ではありません。復興まで見届けたい気持ちで一杯です。（第8・23・32便 谷畑哲勇さん）

# 参加者の傾向

※「みえ発！ボラパック 第1便～第36便」の参加者データを元に作成しました。  
先遣隊および事務局スタッフは人数に含まれません。

参加した人数

**648** 人

日別ボランティア活動人数※

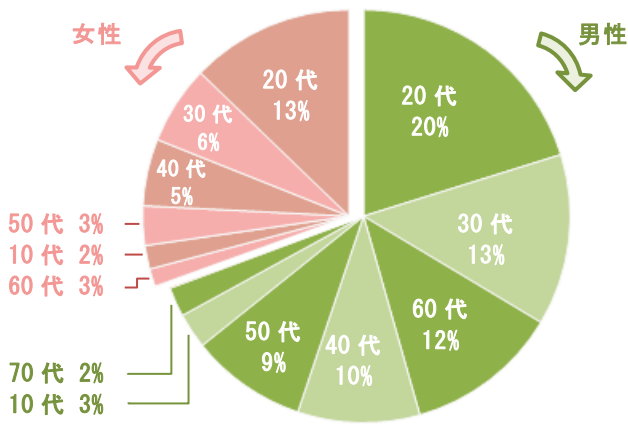
**3728** 人

※日ごとの活動人数の総数

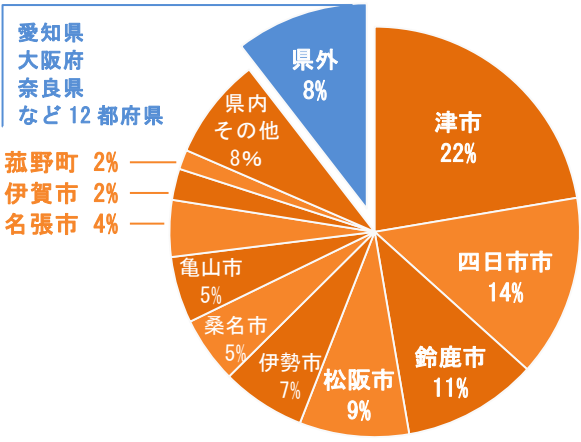


## ● 参加者統計（性別年代別）

女性 **199** 人      男性 **449** 人



## ● 参加者統計（住所別）



リピーター（複数便に参加した人） **75** 人

最多参加回数（2便連続を除く） **5** 回

リピーターが最も多かった年代 **20** 代

最多人数の便 **4** 便（37人）

最少人数の便 **35** 便（8人）

最年長 **75** 歳

最年少 **18** 歳

### ●若い世代が活躍 その裏で光った壮年世代のサポート

4月28日に三重県庁前を出発した第1便から、11月19日に津に帰着した第36便まで、8月の一時期を除き継続して運行した【みえ発！ボラパック】では、延べ648人が片道約15時間もの長距離バス移動に耐え、様々な活動に関わりました。

その参加者の内訳は、性別でみると男性69%・女性31%と男性参加者が多く、男性のみの便が2度ありました。年代別でみると男女とも20代が最も多く、若い力が如何なく発揮されました。しかしその裏には、知識と経験により若い世代を陰ながらサポートする壮年世代の存在が大きかったように感じました。

### ●リピーターは20代が最多 次いで60代

2回以上参加した人は75人で、その中で最も多く参加した人は5回でした。年代でみると20代と60代はほぼ同じ人数で、参加者数の分布と合わせると、それらの年代における東日本大震災への関心の高さが特にうかがえる結果となりました。

### ●遠方からもたくさんの参加者

事前説明会への出席が参加条件であるためか、バス発着地の津市及びその近隣市町が中心でした。一方で、県内では桑名市・紀宝町、県外では愛知・大阪・東京など近隣都府県から、沖縄のような遠方や海外からの参加もありました。



【山田町の皆さんへ】小さいながら支援のつもりで、近頃飲む酒はもっぱら東北のお酒です！ 1日も早く、みなさんが心穏やかに元の生活が送れる日が来るよう願っています。また必ず山田へゆきますので！（第34便 吉住友里さん）

# ボラパック全 36 便を終えて

第5便～第36便まで  
ボラパックメンバー  
と共に活動して  
いただいた  
みえボラサポーター  
二瓶 健さんより

ケンさんこと二瓶健です。5月20日より、みえボラの仲間に入れて頂き、半年にわたる山田町災害支援に関わる事が出来ました。瓦礫撤去はもちろん、支援物資の仕分け、配達、チラシのポスティング、炊き出しの手伝い、中でも8月から始まった絵本の読み聞かせは将来山田町復興の大きな力となる子供達と接し、その成長に期待し、水やり、肥料を施した思いがしました。そして、648名のボラパックの皆さんとラーメンを食べたり、鍋を囲んだり、様々な活動が出来た事、思い返すと頬が綻ぶ次第です。

漁業と観光の山田町が元の明るさを取り戻すには労力、気力、財力、技術力他、生きる人間力が試される事と思います。山田町民だけでなくあらゆる人達の力が合わさり、復興の形と成って行くことを願います。私の気持ちを、考えを、行動を変えてくれたみえボラの皆さんに只々感謝するのみです。ありがとうございました。今後共、仲間に加えて下さい。



お世話になったスタッフの皆さんが最終便を乗せるバスの前に手作りの横断幕を掲げてくれ、センター長がメンバー一人ひとりと固い握手を交わしてくれた。この送別のセレモニーには、みえボラと山田町VCに関わってきた全ての人の太くて温かい絆を感じ、心の底から熱いものがこみ上げた。三重と山田町を結ぶ活動に関わった全てに感謝し、山田町の復興に向けた着実な歩みを願わずにはおれなかった。またいつか山田町の(み)んなの(え)がおを見に行きたい。

第4・14・36便 寺村真一さん



## 物資支援

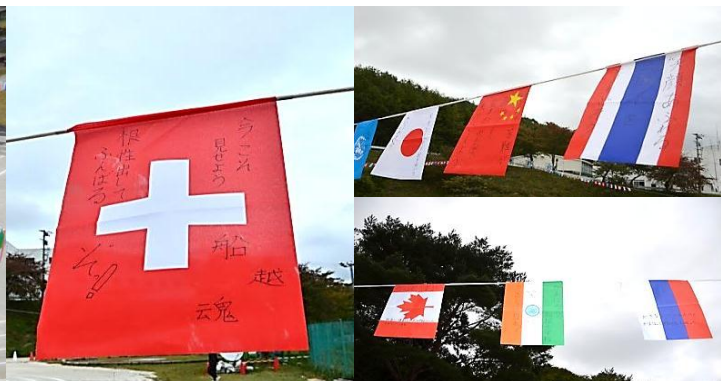
### ◇ 山田町船越小学校に万国旗を寄贈しました

平成23年10月23日(日)、仮校舎の青少年の家にて運動会が開催され、子供たちの輝かしい笑顔と、先生・家族・近所の方々の歓声が一日中響き渡りました。

三重県の志摩市立船越小・中学校と南伊勢町立五カ所小学校の子ども達からの「船越」を応援するメッセージが込められた万国旗は快晴の空に高らかになびき、華やかに会場を彩りました。

「感謝！ メッセージ万国旗」あの大災害の真っ只中、小学校の運動会開催など、諦める以前の問題でした。そんな中、私のツイッターに目を止めてくれたのがみえボラスタッフの方でした。運動会について色々相談させて頂いて、やっとの思いで実現に至りました。お蔭様で子供達は勿論、地域の皆さんからも大変感動したと、お褒めの言葉を沢山頂きました。これも一重に「三重県の船越」と「山田町の船越」の間にできた絆の賜物と思います。子どもたちにとって生涯忘れられない運動会となりました。ありがとうございました。

船越小学校  
PTA会長  
黒澤克行さん



### ◇ 街かどギャラリーにホワイトボードを寄贈しました

山田町長崎地区にある街かどギャラリー・交流集いの広場では、山田町内で絵画・音楽・陶芸・パッチワーク・フラワーアレンジメントなど活動している方の作品展示や癒しのお茶会・お話広場など交流の場を提供しています。

今後の様々な開催予定の管理の為に月予定表示ホワイトボードを寄贈しました。



### ◇ 「えほんの読み聞かせ」用大型絵本・紙芝居を購入しました

みえボラ継続ニーズ「えほんの読み聞かせ」活動で使用する為に、支援金で第29便からの大型絵本、第30便からの紙芝居を購入しました。大きい絵と、効果の付いた読み聞かせに子どもたちの目が輝き、読み聞かせ活動に欠かせないアイテムとなりました。活動終了後、山田町内の各幼稚園・保育園へ振り分け、寄贈しました。



# その他の被災地支援活動

## ■ 思いで戻し隊・みえ

被災し、誰のものか分からなくなってしまった思い出の品々…これらを三重でお預かりし、洗浄してお返ししようと始まった【思いで戻し隊・みえ】のプロジェクトは、写真家浅田政志氏と津市立橋南中学校生徒が取り組んだことが新聞報道されたこともあり、「何かできることはないか」と思いが募る方々から多くの共感を呼びました。個人の大切な品々のため、安全管理の徹底や活動者自身の衛生管理などができる団体に実施主体として担っていただくことで、県内各所でこのプロジェクトが実施されました。

赤ちゃんの成長記録や結婚式の記念写真、旅のスナップ、時には鞆や大漁旗を手に取り、持ち主の無事を祈りながらの洗浄作業。1枚でも多くお返すために、富士フィルム株式会社のご協力によりレクチャーを開催し、作業マニュアルや仕分けマニュアルなども作成しました。また、三重県カメラ商組合をはじめ、県内外からたくさんのポケットアルバムをご寄贈いただきました。

5月14日から始まった【思いで戻し隊・みえ】は、多くの方々のご支援とご参加のもと、2012年1月27日に活動を終了し、お預かりした思い出の品々は若手県山田町（山田町社協復興支え愛センター）へお届けが完了しました。



三重県内での実施主体

**19 団体**

活動者数（のべ）

**約 2800 人**

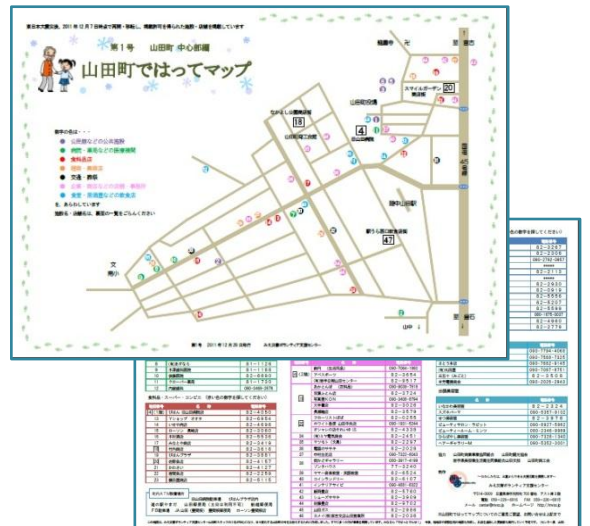
寄贈されたポケットアルバム

**10000 冊以上**

## ■ 山田町ではってマップ

「山田町ではってマップ」は、震災で被害を受けた施設や店舗が、ほかの場所に移転したり、仮設商店街に入居して営業を再開していることを受け、山田町内の病院や金融機関・商店など、生活に必要な店や施設の位置が分かる「生活地図」が必要と考え、現地スタッフである佐藤・外館が中心となって作成しています。地図が外出のきっかけになればとの思いから、「ではって（山田町の方言で「でかける、でかけよう」）マップ」と名付けました。

山田町中心部の地図と情報を掲載した第1号を、2011年12月末に発行しました。今後、ほかの地域や仮設住宅マップについても作成を予定しています。お寄せいただいたご意見やご要望を反映し、住民の皆さまに使っていただける「生活地図」を目指しています。



【山田町の皆さんへ】山田町は、私の生まれ故郷の風景が重なる部分があり、自分の「ふるさと」のように感じていました。震災前とは違うかもしれませんが、山田町の皆様が、それぞれの「ふるさと」に帰れる日が来ることを願っています。（第30便 庄司論史さん）



# 山田町からの声

山田町社協復興支え愛センター長  
(福) 山田町社会福祉協議会  
事務局長 福士 豊さん



新しい「やまだ弁講座」集めておきたいと思います。

早いもので、あの日から10ヶ月が過ぎようとしています。ボランティアセンターの立上げは4月9日と沿岸被災地のボランティアセンター設置から1ヵ月後と遅くなりました。適当な場所がない、施設がないなど、ボランティアさんを受け入れる環境整備がなかなか整わないことが理由でありました。結果として、高台にあるB&G海洋センターを拠点とする官民一体の山田町災害ボランティアセンターとしてスタートすることとなりました。現在、皆様のご支援のお陰で町は少しずつ復興へと向かっておりますが、道のりはまだまだ遠いような気がしております。私たち社協もボランティアセンター運営や本来の地域福祉事業を進めるためサロンやカフェの開催など崩壊したコミュニティを再構築すべく微力ながら奮闘しております。

この10ヶ月を振り返って見ますと日々、気持ちが落ち込みそうになった時などボランティアの皆様の笑顔と元気が私たちの復興へのエネルギーの源となっていました。全国の皆様から多くの支援を頂きましたが、特にも「みえ」の皆様からは現地事務所を開設して頂くなど物心両面にわたり度重なる応援を頂くこととなりました。心から感謝であります。無知とは言いながら、これまでの活動において皆様方には大変失礼な言動や行動が多々あったものと思っております。この場をお借りし心から深くお詫び申し上げます。

春(待ち遠しいです。)になりますと、現在休止しているボランティア受け入れを再開することとなりますが、また、また、皆様のお力をお借りすることとなります。何時までも他力本願ではダメ!!! と思いつつも今少しお願いしたいと思っております。

みえの皆様にもちのくやまだからありがとうございます感謝を込め御礼とさせていただきます。

## みえボラの団結力は本当に素晴らしい!!

みえボラ36便の皆さんの活動が終わってから、山田町のボランティア活動は一気に静けさに包まれました。改めて皆様のお力、熱い思い、実行力に感服するとともに、感謝の念がつきません。今振り返ると、センター開所時から一緒に活動させていただいたのがみえボラの皆さんでした。ガレキ撤去の主力として、また、その他多種の活動、センター運営まで活躍されたのが皆さんです。常に山田町に滞在し、困ったときの「みえボラ」。そんな存在でした。切れ目なくボランティアの派遣をしていただき、そして山田町の復興を共に見てきた皆さんとは、今後も良いお付き合いが出来ればと真に思っています。みなさんありがとう。そして来春またお会いしたいです。



(福) 山田町社会福祉協議会  
事業推進係長 阿部 寛之さん



山田町災害V.C.の皆さん  
(アリーナ班: 佐々木さん, 五十嵐さん, マッチング班: 大手さん, 田村さん, 横田さん, 資機材班: 佐藤さん, 沼崎さん, 配車班: 岩浅さん)

## 「ありがとう」の一言に尽きます。

みえの方々には、遠く知らない山田町まで来てもらって「感謝」の一言です。引き継ぎがしっかりできているので、新しい便の方が来ても対応がし易く、慣れていない時には、助けられること、教えられることもたくさんありました。運営の頃、夜遅くまで頑張ってくれていたことが印象深いです。依頼主の方から「話し相手になってもらえて嬉しかった」という声もあり、地域の方にも、積極的に話しかけてもらっていたことがよく分かって有り難かったです。毎朝の朝礼でもノリ良く、いつも賑やかで雰囲気明るくしてくれていたのも、第36便を見送った後は淋しく感じました。みえの皆さんとの楽しい思い出と出逢いに感謝しています。晴れの日も、雨の日も、風の日も、台風の日も、活動して下さって本当にありがとうございました。

みなとや  
山崎政子  
さん



震災直後、店の中は陥没、壁や窓も流れてきた油で考えられないくらい汚れ、とても店を再開できる状態ではなかった。やっとの思いで入ってもらったボランティアさんのことは、ハッキリと覚えている。みえボラの方々には家の清掃など、何事も快く引き受けてもらって有り難かった。「申し訳ないね…」と言った時に「好きで来ているから」と言ってくれたことが今でも忘れられない。皆から手伝ってもらって、やっと家になった。色んな方の出入りがあり、今がある。あの方たちがいなかったら、とても考えられないことばかり。心ある人が沢山来てくれて、すごく感謝しています。

東日本大震災、命は一家全員助かったけれど自宅は全壊、商売している二店舗は流出、家を取巻くガレキの山にただ茫然、成す全てを失った。そんな時三重県のボランティアの皆様が、家の周りをきれいに片付け積重なったガレキの下より基の土が出た時、その働く姿、人の温い支え、涙がこぼれ又勇気をいただいた。7月31日、皆様がかれいにしてくれた場所でお店を開けた事、本当に感謝します。次は自宅を造ります。

本当にありがとう。

エポック  
箱石 明彦さん・キノ子さん



# 県内避難者支援 みえで仲間をつくり隊！

東日本大震災により、東北・関東から多くの方が三重県内各地に避難し、生活をされています。震災から1年を過ぎた現在でも、ふるさとから遠く離れた三重での避難生活や生活再建に、不安を感じる声が寄せられています。

みえ災害ボランティア支援センターでは、三重県内に避難されている方々に対し、少しでも不安の解消にお役立ていただければと検討を重ね、平成23年7月より【みえで仲間をつくり隊！】として、多くの三重県内の企業・団体からのご協力をいただきつつ、以下の企画・実施をしています。

- ◆ 県内情報誌「Simple」の定期的な発送
- ◆ 避難された方同士の懇談の場【しゃべり隊】の開催
- ◆ 県内各地でイベント等を楽しむ【楽しみ隊】の開催
- ◆ ホームページ等での情報提供、活動報告



**第1・4・5回 座談会 (しゃべり隊)**  
会場：アスト津

参加者数：  
(第1回)23人  
(第4回)8人  
(第5回)13人



(参加者の声)  
・震災の時の事など、思い切り話せて少しスッキリしました。話ができる相手がいるという事だけで、ずっと心の内に閉まっていた不安などを口に出せてよかったです。



**第3回 座談会**  
会場：鈴鹿サーキット  
参加者数：42人

(参加者の声)  
・故郷の事も心配ですが、生活するには前向きにここで頑張らなくてはならない現実。同じ福島出身の人と交流しながら頑張りたいです。




**第2回 座談会**  
会場：神宮会館(伊勢)  
参加者数：20人

上の絵は、第2回座談会に参加された方のお子さんが描いた絵です。ふるさとに帰られることになった際、ご家族で事務局に立ち寄られ、絵をいただきました。伊勢神宮ミニツアーの楽しい思い出だそうです。

**東日本大震災に伴う被災地からの各市町別被災者受け入れ状況**

平成24年1月26日  
三重県公式発表

**計 419 人**



菰野町	3人
朝日町	1人
川越町	1人
四日市市	184人
鈴鹿市	42人
亀山市	39人
伊賀市	18人
津市	68人
松阪市	11人
多気町	6人
伊勢市	29人
名張市	7人
尾鷲市	10人






**第1回 楽しみ隊 in 多気**  
会場：五桂池ふるさと村  
参加者数：30人

(参加者の声)  
・新しい知人が出来たのでよかったです。芋煮はやはり東北のソウルフードで、久々に食べれてうれしかったです。  
・毎回顔をみせてくれるボランティアの方がいて安心しました。

みえ災害ボランティア支援センターには36世帯111人(1月末現在)の県内避難者の方々のご登録がありますが、まだまだ当センターの支援をご存じない方もおられます。今後も避難されてきた方の把握に努めていく所存ですが、みなさまのお近くに避難されて来て、まだご登録されていない方がおられましたら当センターまでご連絡ください。



■【みえで仲間をつくり隊！】会議

基本的に月2回、県内避難者支援に関心のある事務局ボランティアが集まり、【みえで仲間をつくり隊！】の会議をしています。そこでは、「楽しみ隊」のアイデアについてざっくばらんに意見し合ったり、今後の「あり方」「方向性」について真剣に考えたり…とみなさん時間が経つのを忘れるほどに話し合います。今後は避難者支援に携わる県内の他団体とも連携しながら、「みえで仲間をつくらせていただける」支援を企画・実施していきます。

## つながる心をカタチに… 「輪」になる「和」になるプロジェクト



東日本の方々へのメッセージを書いた短冊を「輪」にしていただき、その想いの輪をたくさん繋ぎ合わせていく活動を実施しました。

多くの方々のご参加により、プロジェクトが終了した10月末までには、総計93m(2,057輪)の「想いの輪」ができました。



## 東日本大震災写真展



写真を見ながら改めて東日本大震災を考える機会として、1月8日～22日まで写真展を開催しました。

写真展では、【みえ発！ボラパック】の様子や現地スタッフが撮影していた発災直後の山田町の写真を展示しました。初日・2日目には、その現地スタッフによる撮影時の山田町の様子を、写真と共に語る時間も設けました。

現在、写真パネルは、希望する団体・事業所等に貸し出しを実施しています。

## 東日本大震災座談会 in みえ ～ ボランティアについて知り隊・話し隊～



東日本大震災の被災地ボランティアに興味・関心がある方々や、実際に経験された方々が、ボランティア活動について一緒になって疑問や考えを話し合う座談会を実施しました。

5月～8月にかけて3回開催し、のべ81名の方々に参加されました。



## 活動報告会・講師派遣

「被災地でのボランティア活動経験を学校の生徒に話して欲しい。」「イベントでボランティアに関するトークライブを実施したい。」そんな要望があった時、【みえ発！ボラパック】に参加された方に報告会や講師のお願いをさせていただくことがあります。

ご自身のボランティア経験を語ることを通して、より多くの方々に「東日本大震災」や「ボランティア」について考えていただく機会となっています。

以下は、【みえ発！ボラパック】参加者が、県内中学校で報告会を実施した時の参加生徒の感想です。

- ◆明日は何が起こるかわからないから、一日一日を大切にしていきたいと思った。
- ◆今は被災地に直接行ったりしてボランティアをすることはできないけど、小さなことも自分にできることがあると分かったから、行動に移していけたらいいなと思った。「ありがとう」という言葉は人の心を動かす大切な言葉だと思った。

# みえ災害ボランティア支援センターについて

## ■ みえ災害ボランティア支援センター設置まで



未曾有の大地震が発生した3月11日の夜、みえ県民交流センターにNPO法人みえ防災市民会議の山本議長（現みえ災害ボランティア支援センター長）の呼びかけに応じて幹事団体が集まりました。幹事団体は6団体、NPO法人みえ防災市民会議、同みえNPOセンター、三重県ボランティア連絡協議会、社会福祉法人三重県社会福祉協議会、日本赤十字社三重県支部、そして三重県（防災対策室、社会福祉室、男女共同参画・NPO室）です。災害救援に取り組むNPO、民間団体と県行政が協働で、被害発生の都度設置し、被災者の支援を行う三重県独自の仕組みです。幹事団体は阪神・淡路大震災、ナホトカ号重油流出事故、東海豪雨などの災害時の経験やノウハウを生かして、三重県地域防災計画および「災害ボランティア活動の支援に関する協定書」を締結しています。

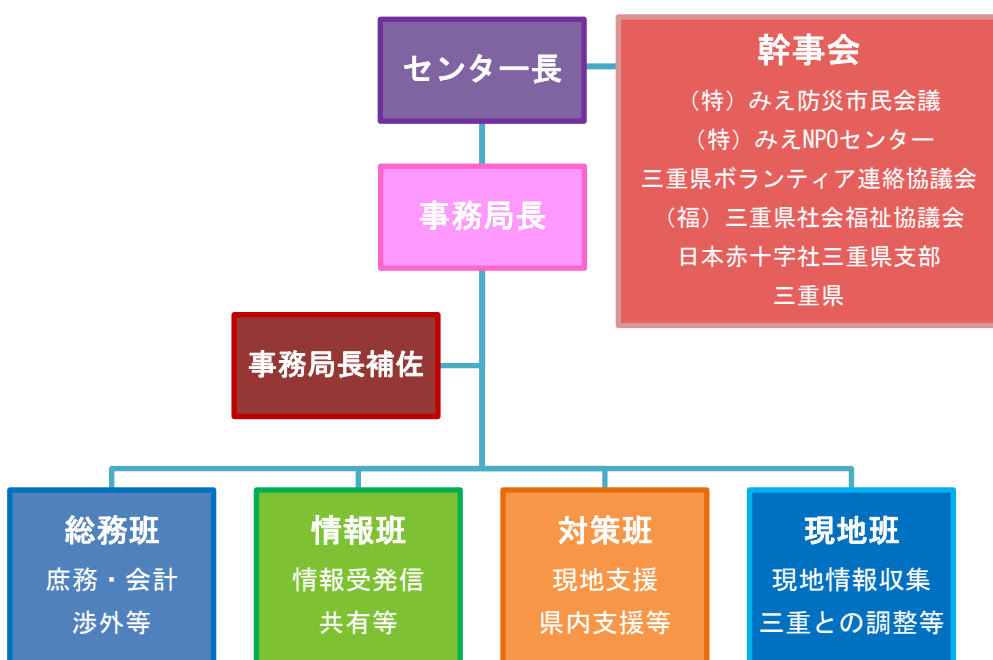
集まった幹事団体では東日本を襲った災害の情報を収集し、資金の拠出計画やニーズにあった支援の構築に合意しました。そして3日後、みえ災害ボランティア支援センターがみえ県民交流センター内に設置されました。

## ■ 事務局体制の整備

4月11日、みえ県民交流センターは興奮と熱気に包まれていました。大震災と津波の被害の報告、先遣隊となって現地を訪れた人の報告、早々に現地にとんで支援活動を展開したグループの話・・・、そして、被災された方々が笑顔を取り戻し地域が復興するまで、息の長い支援活動を三重から展開することを宣言した「東日本大震災復興支援みえ宣言」が謳いあげられたのです。

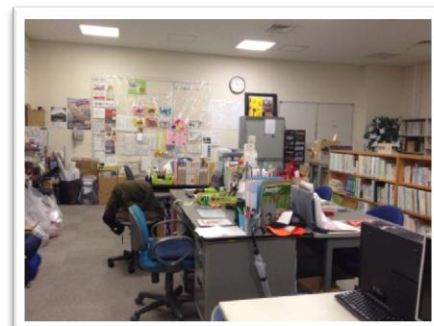
この日を境に事務局体制が急ピッチで整備され、5月1日には専任スタッフによる現体制の基礎ができました。特に現地スタッフ雇用の必要性については、知事からの強い後押しがありました。当初、現地スタッフは山田町災害ボランティアセンターに1名を配置していましたが、現在は山田町商工会と観光協会に各1名が机を置かせていただきながら、災害を経験した当事者ならではの視点で、山田町と三重との架け橋になっています。

## ■ 組織図



## ■ スタッフ

センター長	山本 康史
事務局長	若林 千枝子
事務局長補佐	伊佐 彰代
総務班長	番家 康文
情報班長	山畑 直子
対策班長	森本 佳奈
スタッフ	坂井 孝行
〃	松岡 佑美
〃 (山田町)	佐藤 辰也
〃 (山田町)	外館 こずえ





### ■ 現地事務所としてのトレーラーハウス設置

当初、現地で活動するボランティアの方々からの提案を受けて活動を改善したり、現地の災害ボランティアセンターとの打合せを行ったりするなど、すべての事を三重にある事務局本部で対応していました。しかし、どうしても現地との温度差ができてしまったり素早い対応ができないという課題があり、現地事務所の必要性を議論してきました。その頃 Trailer house partners professional team(東日本大震災および福島原発事故の被災者復興にむけ、支援活動をしている団体への後方支援を目的にした組織)からトレーラーハウス貸与の話を持ちかけられました。このトレーラーハウスは、Trailer house partners professional team が国内生産したモデル第1号と聞いています。建築許可が下りず地域の復興に向けた1歩を踏み出せずにいる被災地域にとって、様々な可能性を提示できるモデルともなるだろうと思われ、みえ災害ボランティア支援センターの山田町事務所としてのみでなく、どなたにも見学していただけるモデルハウスとしての機能を兼ね備えることとしました。

山田町への継続支援の拠点として、山田町災害ボランティアセンターのご理解とご協力により、センター施設内グラウンドに現地事務所を開設させていただくことになりました。現地事務所開所式には三重県知事も参加し、息長く充実したボランティア活動への支援を約束しました。

### ■ 事務局長のつぶやき

3月いっぱいまで退職という2011年。さてさて40年の県職員生活に区切りをつけて、残りの人生をどう生きようか。家族に支えられて今の自分があることに感謝してエンディングノートの準備をしよう。その前に親の介護があるし、それから趣味を活かして地域貢献もやりたい。そうこう考えているうち、起こったのです。あの大震災が！

そして身の程もわきまえず事務局長という大役を引き受けることになったのは、息子とさほど年の違わないセンター長や、ボランティアのみなさんの熱い気持ちに奮い立ったからでした。熱い想いは事務局スタッフ全員にも通じます。やっぱりこれは“ほっとけませんわ！”。それからの1年、スタッフのみんなとがむしゃらに、全力疾走で走り続けた感があります。今になって思うこと、それは“やってよかった”ということです。いえ正しくは“やらせてもらって”ですね。ボランティアに求められるのは自発性と自己責任です。三重の人には、本物のボランティア精神が根付いていると思いました。そして命の重みと人の心の温かさを、改めて考えさせられた1年でもありました。



### ■ 情報発信

みえ災害ボランティア支援センターでは、【みえ発！ボラパック】を中心としたボランティア活動の報告や、ボランティアの募集、三重県内に避難されている方への情報、山田町の様子、また他団体からの情報提供など、様々な媒体を使い情報発信をしています。

- みえボラ新聞 (不定期・現在第8号まで発行)
- ニュースメール (不定期配信)
- ホームページ <http://mvsc.jp>
- ツイッター  
事務局スタッフアカウント [mvsc\\_jimukyoku](https://twitter.com/mvsc_jimukyoku)  
山田町スタッフアカウント [mvsc\\_yamada](https://twitter.com/mvsc_yamada)
- フェイスブック <http://www.facebook.com/mvsc0311>

# 台風 12 号災害支援

8月30日から9月4日にかけて日本列島に接近、通過した台風12号は、西日本から北日本にかけて、山沿いを中心に広い範囲で記録的な大雨となりました。紀伊半島では土砂災害、浸水、河川のはん濫等により、和歌山県、奈良県、三重県などで死者、行方不明者が発生したほか、床上床下浸水などの住家被害、農林水産業への被害、交通障害など、甚大な被害をもたらしました。

(気象庁発表・台風12号概要より)



## ■ 台風12号被害概要

死者 78 名、行方不明者 16 名

全壊 371 棟、半壊 2,907 棟

床上浸水 5,657 棟、床下浸水 19,152 棟

(2011年11月2日 消防庁調べ)



この被害を受けて、三重県内では紀宝町、熊野市、御浜町の3市町で災害ボランティアセンターが設置されました。

みえ災害ボランティア支援センターでは、9月5日に幹事団体による臨時会を開催し、台風12号による豪雨災害で被害を受けた三重県内の被災地・被災者への支援活動に取り組むことを確認しました。先遣隊の派遣や被害情報の収集、台風12号災害支援特設サイトを立ち上げるとともに、9月14日より【東紀州行き！ボラパック】を運行しました。

3市町(熊野市・美浜町・紀宝町)

でのボランティア活動人数に対し、およそ7パーセントを【東紀州行き！ボラパック】が担いました。

	熊野市	御浜町	紀宝町	合計
ボランティア活動人数(のべ)	2,561名	116名	5,314名	7,991名
ボラパック参加人数(のべ)	208名		361名	568名
全体比	8.1%		6.8%	7.1%

三重県内の各市町単位でボランティアバスが運行され、結果として県内の参加者が分散したこともあり、当センターの運行する【東紀州行き！ボラパック】は募集定員に満たないこともありましたが、16歳から74歳までの533名が参加しました。

2回以上参加するリピーターも多く、最多参加回数は8回でした。また、三重県内だけでなく、関東・中部・北陸・関西・四国など15都府県の方々の参加がありました。

便数	日付	参加者数(男女比)	活動先
第1便	9月14日(水)	41名(27名:14名)	熊野市(21名)、紀宝町(20名)
第2便	9月15日(木)	66名(49名:17名)	熊野市(40名)、紀宝町(26名)
第3便	9月16日(金)	77名(57名:20名)	熊野市(39名)、紀宝町(38名)
第4便	9月20日(火)	台風15号接近に伴い運行中止	
第5便	9月21日(水)	台風15号接近に伴い運行中止	
第6便	9月22日(木)	24名(15名:9名)	紀宝町
第7便	9月23日(金)	36名(27名:9名)	紀宝町
第8便	9月24日(土)	53名(36名:17名)	熊野市(30名)、紀宝町(23名)
第9便	9月25日(日)	31名(23名:8名)	紀宝町
第10便	9月26日(月)	12名(6名:6名)	熊野市
第11便	9月27日(火)	11名(9名:2名)	紀宝町
第12便	9月28日(水)	20名(13名:7名)	紀宝町
第13便	9月29日(木)	40名(21名:19名)	熊野市
第14便	9月30日(金)	37名(24名:13名)	紀宝町
第15便	10月1日(土)	16名(10名:6名)	熊野市
第16便	10月2日(日)	32名(16名:16名)	紀宝町
第17便	10月7日(金)~9日(日)	20名(16名:4名)	8日:熊野市と紀宝町、9日:紀宝町
第18便	10月14日(金)~16日(日)	17名(14名:3名)	紀宝町
第19便	10月21日(金)~23日(日)	運行中止	



## ■ 思わぬトラブル！ 落石・通行止め

9月16日の夕刻、事務局では接近する台風15号に次の第4便・第5便の運航を中止すべきか検討していた時でした。紀宝チームのコーディネーターから、17:00に国道42号線の矢ノ川峠(熊野市～尾鷲市)にて落石による通行止めが発生したとの連絡。すぐに対応を協議しつつ熊野チームと連絡を取ろうとするも、電波状況が悪くつながりません。よもや落石に巻き込まれているのではないかと、ツイッターから熊野チームの参加者の無事を確認したときは、スタッフ一同、本当に心からホッとしました。

その後、第3便紀宝チームは、一旦引き返し熊野市駅からJRに乗り換えて矢ノ川峠を越え、尾鷲駅から代替バスにて22:30に全員無事帰着しました。



## ■ 参加者の声

帰路において土砂崩れ直後の通行止めにより遭遇した。遠回りとなったが関係各所の迅速なる対応のおかげで、約2時間半遅れで無事に帰着することができた。この事故に遭遇した事で災害ボランティアの危険度を改めて思い知る事となった。災害現場に赴くという事は、いつ何が起きてもおかしくない場所へ行くという事、死と隣り合わせであり自身も被災者となる可能性があるという事を痛感した。気軽に参加できるボランティアであっても、決して気楽な気持ちで臨むべきではないと感じた。

直接現場にいるメンバーは無事であればその場の状況に応じた行動ができる。しかし災害時には関係各所の方々や家族・友人知人のバックアップが極めて重要である。

そのため早く正確に情報を伝えて現状の打破に努め、安否を伝える事が必要だと感じた。

(第3・7便 谷畑哲男さん)



## ■ コーディネーターとグループリーダー

出発日の1週間前に事前説明会をおこなう【みえ発！ボラパック】とは違い、【東紀州行き！ボラパック】は当日のバス車内でオリエンテーションを行わなければならなかったため、バス1台につき1名のコーディネーターが必要でした。コーディネーターには幹事団体であるNPO法人みえ防災市民会議のメンバーや【みえ発！ボラパック】参加経験者から選出され、グループリーダーと共にメンバーの安全確保と充実した活動になるようご尽力いただきました。参加者からは「前日の夜に事務局からかかってくる電話はリーダーの指名」と恐れられたものでした。

## ■ 支えがあつてこそ

支援は現地での災害ボランティア活動だけではなく、まだ薄暗い早朝の受付やお見送り、慌ただしい事務局での様々な準備、時間変動する帰着のお迎えなど、これらを担っていただいた事務局ボランティアや【みえ発！ボラパック】経験者の方々は大きな支えとなりました。また、施設や物資を快く提供いただいた団体や企業、活動支援金のご寄付をいただいた方々・・・様々な支援に支えられ【東紀州行き！ボラパック】は運行することができました。

## ■ チェーンソー・ボランティアへの支援

被災地の復旧復興にとって必要かつ専門的なボランティア活動への支援として、チェーンソー・ボランティアの活動支援(機械損料、燃料、その他消耗品費)を行いました。災害ボランティアセンターの依頼した活動及び当センターが必要と認めた活動(東紀州生活取り戻し隊)に適応され、12月末までにのべ30名(92日分)が活用し、支援総額は362,000円でした。

# 収 支 報 告

## ■ 東日本大震災支援

(2012年1月31日締切)

### 【収入の部】

(単位:円)

科 目	金 額	摘 要
県の負担金	32,029,000	
寄 付 金	9,581,632	209 件
参加負担金	6,255,000	ボラパック参加費 第1便～36便は1万円 特別便(1回)は1.5万円徴収
助 成 金	2,200,000	日本財団・三重県社会福祉協議会・金のハートのお店 三重県遊技業協同組合加盟店
そ の 他	982	利息(842円+140円)
合 計	50,066,614	

### 【支出の部】

科 目	金 額	財 源 内 訳					摘 要
		県負担金	参加負担金	助成金	寄付金	その他	
車両借上費	15,599,980	○	○	○	○		バス代(ボラパック計36便+特別便1便)
消 耗 品 費	1,383,077	○			○	○	事業運営・事務局運営に係る費用
使用料及び賃借料	1,848,362	○			○		被災地三重車・レンタカー使用料等
事務機器費	673,942	○			○		ノートパソコン・携帯電話・デジタルカメラ等
図書印刷費	307,410	○					災害ボラ冊子・みえボラ新聞・各種チラシ等
燃 料 費	223,557	○					被災地三重車・レンタカー燃料代
通信運搬費	462,632	○					事務局電話・携帯通話料・切手・メール便等
光 熱 水 費	33,514	○					山田町事務所(トレーラーハウス)光熱水費
給 料 手 当	8,524,916	○					事務局職員7名分給料・雇用保険料等
旅費交通費	2,007,819	○					事務局職員出張旅費
法定福利費	2,175,412	○					労働保険料・社会保険料
事業事務費	934,520				○		各種事業に係る諸費用
被 服 費	213,060				○		ビブス(ユニフォーム)製作費
予 備 費	25,000				○		乗車変更による参加負担金の返金5名
合 計	34,413,201						

## ■ 台風12号災害支援

(2012年1月17日締切)

### 【収入の部】

(単位:円)

科 目	金 額	摘 要
寄付金	1,902,589	9月1,277,500円 10月98,361円 11月298,645円 12月220,882円 1月7,201円 計55件
県の負担金	1,790,000	
参加負担金	580,500	ボランティア参加者負担分(第1便～16便1,000円×493名 第17・18便2,500円×35名)
その他	76	普通預金利息
収入総額(A)	4,273,165	

### 【支出の部】

科 目	金 額	財 源 内 訳				摘 要
		寄付金	負担金	参加負担金	その他	
旅費交通費	19,950		19,950			第3便=台風関係による国道42号線通行止めの為帰路、JRによる代替輸送をする。(熊野→尾鷲)
車両借上費	2,128,091	1,489,489	58,026	580,500	76	第1便～16便=計18台、第17・18便=各1台
通信運搬費	33,040	33,040				切手・メール便代
消耗品費	366,577	362,000	4,577			領収証・腕章・粘着テープ・警告灯・救急箱・チェンソー機材関係費等
手数料	18,060	18,060				振込手数料 1回目12,810円(21名) 2回目5,250円(9名)
支出総額(B)	2,565,718	1,902,589	82,553	580,500	76	

### 【収支差額】

科 目	金 額	財 源 内 訳				摘 要
		寄付金	負担金	参加負担金	その他	
総額(A)-(B)	1,707,447	0	1,707,447	0	0	* 三重県へ左記の金額全額を返納します。

\* 寄付金:個人・団体のみならず多額の活動支援金をいただきました。その善意を生かす為に、バス運行経費を中心に支援活動に全額支出させていただきます。



# ご支援、ご協力いただいた企業・団体

個人の方々からも活動支援金のご寄付や物資提供、ボランティアやスタッフへの差し入れなど、たくさんのご支援、ご協力をいただきました。本来なら全ての方々のお名前をご紹介させていただくところですが、匿名の方も非常に多く、また紙面に限りもあるため、ご紹介を省略させていただきます。お一人おひとりの皆さまに、心より感謝申し上げます。

また、ここに掲載していない企業・団体につきましても、匿名や他団体を介してなど、多大なご支援、ご協力をいただきました。重ねてお礼申し上げます。

## ■ ご支援、ご協力いただいた企業・団体一覧 (2012年1月31日現在 順不同)

公益財団法人国際環境技術移転センター／公益財団法人日本財団／公益財団法人松阪青年会議所／財団法人伊勢神宮崇敬会／財団法人三重県母子寡婦福祉連合会三雲支部／いせ市民活動センター／桑名市民活動センター／鳥羽市ボランティア連絡協議会／名張市ボランティア連絡協議会／松阪市ボランティア連絡協議会飯高支部／伊勢市まちづくり市民会議／一関市／岩手県一関市役所千厩支所千厩農村環境改善センター／岩手県美容業生活衛生同業組合山田支部／山田町／山田町観光協会／山田町商業事業協同組合／山田町商工会／三重県農水商工部商工振興室／三重県立図書館／多気町まちづくり仕掛人塾／多気町まちづくり仕掛人塾あじさい姫委員会／多気町消防団女性消防隊コスモス隊／勢和の語り部会／五桂池ふるさと村／三重県カメラ商組合／三重県陶芸協会／三重県普及指導員根っこの会／三重県遊技業協同組合／三重県遊技業福祉連合会／三重ラフター(笑い)ヨガクラブ／日本労働組合総連合会三重連合会／生活協同組合コープみえ／協同組合三重県勤労者福祉センター／協同組合松阪卸センター／宗教法人真如苑松阪支部／宗教法人天理教南紀大教会／曹洞宗龍昌寺／学校法人エスコラピオス学園海星中学校／学校法人皇學館大学／学校法人セントヨゼフ女子学園／国立学校法人三重大学／志摩市立船越小学校／志摩市立船越中学校／津市立香海中学校／津市立橋南中学校／三重県立川越高等学校／三重県立昂学園高等学校／三重県立みえ夢学園高等学校／南伊勢町立五ヶ所小学校／三重学生災害支援団体 Team M／特定非営利活動法人赤目の里山を育てる会／特定非営利活動法人三重県防犯設備協会／特定非営利活動法人Mブリッジ／特定非営利活動法人伊賀の伝丸／特定非営利活動法人こどもサポート鈴鹿／特定非営利活動法人在宅支援サービス青空／特定非営利活動法人津子どもNPOセンター／特定非営利活動法人ふくろうの家／特定非営利活動法人三重みなみ子どもネットワーク／特定非営利活動法人めいわ市民活動サポートセンター／特定非営利活動法人起業支援ネットワーク三重事務所／特定非営利活動法人四日市男女共同参画研究所／A BARRELS／ESD in 三重／GTO／東紀州コミュニティデザイン／まちのファンクラブ／Trailer house partners professional team／伊勢おはらいまち会議／岩田テレビ共同組合／関西ネットワークシステム 東海支部／北神山工業団地企業連絡協議会／消費生活グループ明和すずしろ会／整形外科リハビリテーション学会三重／たき環境くらぶ竹遊号／たらちね会／ダンスグループ凜／チャリティーフリマ事務局／北勢公設地方卸売場水産／みえクライマーズ／ワイワイ／津芸芸農業協同組合本店／阿倉川運送株式会社／荒木自動車／いく工房／岩手県交通株式会社／上田染工／株式会社 ENEOS フロントピア中部支店二見SS／株式会社岩田油店／株式会社川原製茶／株式会社グリーンズホテルグリーンパーク津／株式会社スコルチャ三重／株式会社ゼロ／株式会社地域資源バンクNIU／株式会社東海テクノ／株式会社マサヤ／株式会社マルファーム／株式会社ミエテック／株式会社モビリティランド／株式会社モリワキエンジニアリング／近畿日本ツーリスト株式会社津支店／住友電装株式会社／高山電気事務所／タケムラ薬局／ヒグチモーターズ／富士フィルム株式会社／船越家族旅行村オートキャンプ場／ヘアサロンいまい／マックスパリュ中部株式会社松阪中央店／万協製薬株式会社／三重交通株式会社／名鉄観光サービス株式会社津支店／森田理容店／有限会社御菓子司清水屋／有限会社ブルー黒川／四日市運送株式会社／若浅屋／河合農園／河武醸造株式会社／協立ハイパーツ株式会社一関工場／山路工業株式会社／瀬古食品有限会社／特別養護老人ホーム多気天啓苑／洋菓子の Aile／カゲツエン／カダンヤエンイダカ／ノカミ／ヤナギ／百五銀行／ゆうちょ銀行

社会福祉法人桑名市社会福祉協議会／社会福祉法人朝日町社会福祉協議会／社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会／社会福祉法人川越町社会福祉協議会／社会福祉法人木曾岬町社会福祉協議会／社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会／社会福祉法人東員町社会福祉協議会／社会福祉法人亀山市社会福祉協議会／社会福祉法人四日市市社会福祉協議会／社会福祉法人津市社会福祉協議会／社会福祉法人菟野町社会福祉協議会／社会福祉法人松阪市社会福祉協議会／社会福祉法人多気町社会福祉協議会／社会福祉法人大紀町社会福祉協議会／社会福祉法人明和町社会福祉協議会／社会福祉法人伊賀市社会福祉協議会／社会福祉法人大台町社会福祉協議会／社会福祉法人名張市社会福祉協議会／社会福祉法人伊勢市社会福祉協議会／社会福祉法人尾鷲市社会福祉協議会／社会福祉法人鳥羽市社会福祉協議会／社会福祉法人紀北町社会福祉協議会／社会福祉法人志摩市社会福祉協議会／社会福祉法人熊野市社会福祉協議会／社会福祉法人玉城町社会福祉協議会／社会福祉法人御浜町社会福祉協議会／社会福祉法人度会町社会福祉協議会／社会福祉法人紀宝町社会福祉協議会／社会福祉法人南伊勢町社会福祉協議会／伊賀市災害ボランティア支援センター／亀山市災害ボランティア支援センター／桑名市災害ボランティア支援センター／名張市災害ボランティア支援センター／菟野町災害支援ボランティアセンター／松阪市災害ボランティア支援センター／桑名市／朝日町／いなべ市／川越町／木曾岬町／鈴鹿市／東員町／亀山市／四日市市／津市／菟野町／松阪市／多気町／大紀町／明和町／伊賀市／大台町／名張市／伊勢市／尾鷲市／鳥羽市／紀北町／志摩市／熊野市／玉城町／御浜町／度会町／紀宝町／南伊勢町



## ■ 3色の幟

みえ災害ボランティア支援センターの幟は3色あります。これは3か所の個人、団体からご支援いただいたためです。同じデザインでもそれぞれ思いが込められており、どれも「みえ」らしい色合いの幟は、文字通り旗印としてボラパックの送迎時やイベント時などに活用させていただいています。

## ■ 200枚の手縫い雑巾

8月のある日、事務局に小学生の女の子とお祖母さまがお越しになりました。東日本大震災の報道を見て、「何か自分にできることを」と従妹と一緒に縫ったという雑巾は約200枚。丁寧に縫われ、心のこもった雑巾は、山田町でのボランティア活動で活用させていただきました。

## ★バス1台の経費＝平均40数万円

(バスターター代金+乗務員経費)

※1行程が2夜行3日の場合

※季節等により金額変動あり

## ★ボラパック参加者負担分(1万円)について

定員20名として、参加者の方々に総額のおよそ半額の1万円を負担していただき、県の負担金からもおよそ半額を支出しています。

※なお、不足の場合は、助成金等で支出します。



## ■ 三重県知事からの メッセージ



平成 23 年は、3 月 11 日に東日本大震災、9 月に紀伊半島大水害が発生し、東日本や紀伊半島を中心に甚大な被害が出て尊い命が失われました。

これほどの大災害を前に、私たちにできることは、被災地の復旧・復興に向けた支援を息長く続けることだと思います。また、この支援から得た教訓を生かして、東海・東南海・南海地震、台風・豪雨等風水害に備えることも必要だと感じています。

みえ災害ボランティア支援センターでは、行政、団体、NPO など、さまざまな主体が協働し、被災地への支援活動を続けています。また、支援活動を行うにあたり、ボランティアへの参加や支援金寄付等を通じ、多くの皆さんにご協力いただきました。

私は、知事として、皆さんの「被災地を支援したい」という思いを大変心強く感じ、皆さんの思いが必ず被災地へエールとなって届き、また本県の防災ボランティア活動の発展に繋がるものと確信しています。

最後に、みえ災害ボランティア支援センターの活動にご協力いただきました皆さんに感謝申し上げますとともに、今後の支援活動につきましても、より一層のご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

平成 24 年 1 月 27 日

三重県知事

鈴木 英敬

## ■ 山田町長からの メッセージ



昨年 3 月 11 日に発生した東日本大震災・大津波で、町の沿岸部が壊滅的な被害を受けるとともに、多くの人命が奪われました。

家族や財産を失い、深い悲しみにくれる町民に生きる力・希望を与えてくださったのは、自衛隊や警察、消防団そしてボランティアの皆さんによる献身的な活動でした。

特にも三重からのボランティアは、4 月から 11 月までの間に約 650 人が来町し、ガレキ撤去や仮設住宅へのポスティング・物資搬入・引越し補助、ボランティアセンター運営など多岐にわたりご活躍いただきました。

これは、ボランティア参加者へのオリエンテーションから日程調整、三重～山田間のバス運行など、みえ災害ボランティア支援センターの皆様が重要な役割を果たしていただいたからこそ思っております。

これまでの活動に改めて感謝申し上げるとともに、今後とも山田町の復旧・復興にご支援くださるようお願いいたします。

平成 24 年 1 月 27 日

山田町長

沼崎 喜一

## 来年度に向けて

私が岩手県山田町に先入りして【みえ発！ボラパック】第1便を出迎えたのが4月29日。

それから東北に向けて36便、また、台風12号災害による地元三重での災害対応のために16便のボラパックを運行することができました。

本当に多くの方の支えあつての、みえ災害ボランティア支援センターでした。

組織立上げ前から飛び回ったNPOの仲間達。みえ宣言に賛同頂いた発起人のみなさま。官民協働の体制作りやボランティア保険手続き、ボラパックの送り出し等に奮闘した幹事会メンバー。ガソリンや情報が不足する中、軽タンク車まで確保し現地入りした先遣隊第1陣。山田町災害ボランティアセンター起ち上げスタッフとして早朝から深夜まで汗を流した先遣隊2,3,4陣。物資や資機材・支援金を寄付頂いた企業や団体、個人の方々。長期現地滞在してみえボラの受け皿となった二瓶様。公私の別なく裏方として動いた事務局ボランティアのみなさまやスタッフ達。その他この紙面でとても語り尽くせない程です。

特に、自身も被災しながら三重からのボランティア受入にご尽力頂いた山田町の町役場や社会福祉協議会、観光協会や商工会、そして住民のみなさま。ボランティア活動は一方の想いだけでは成り立ちません。みなさまが受け入れてくださったからこそこの活動ができました。

そして、ボラパックに参加して頂いたみえボラのみなさま。みなさまがチームとして繋いだ心のバトンは確実に現地の方々に届いています。中でもリーダー・サブリーダーなどの役割を担っていただいたみなさま、本当にありがとうございました。

東日本の復興に向けた取り組みはこれからも続きます。特に一人ひとりの心の復興のためには、いまだ続く災害の中に身を置く事が日常になってしまっている東北の方々、また、ふるさとから離れ三重に一時避難せざるを得なかった方々にとって、ひととき災害を忘れて過ごせる非日常の時間が大きな意味を持つと考えています。

具体的に当センターでは、現地へ向かう支援として【みえ発！ボラパックⅡ】、三重県内に一時避難した方々への支援として【みえで仲間をつくり隊！】を二本柱に2012年度も取り組みます。

昨年のボラパックは個人ボランティアで編成し、現地災害ボランティアセンターのニーズにそった復旧・避難生活支援を行っていただきましたが、今年のボラパックⅡでは東北の方々と『共通の趣味』を通じて友達の輪を広げる事ができるボランティアのみなさんを募集いたします。これまで「力仕事は不安」などと敬遠していた方々にこそ、ぜひボラパックⅡに参加して津波被災地の現状と、復興に向けて取り組む東北の方々に直に触れ、友達になって頂きたいと思っています。これこそが「忘れない」「寄り添う」ことに繋がるひとつの方法ではないでしょうか。

一方、【みえで仲間をつくり隊！】は去年の活動を継続すると共に、県内で活動する他団体とも連携しながら、三重での仮暮らしの不安が少しでも減り安心して生活できるよう、一時避難者同士や地域と繋がる場を広げていきます。みなさんのそばにも一時避難されている方々がいらっしゃいます。ぜひお力を貸してください。

みえ災害ボランティア支援センターはボランティア活動の主役ではありません。裏方に徹して、東北の方々の声に耳を傾けながら、東北の方々と三重のみなさまが共に笑顔になれるボランティア活動が展開されるようお手伝いしていきたいと考えています。

平成24年2月11日

みえ災害ボランティア支援センター長

山本 康史



## 活動支援金への募金にご協力ください

息の長い支援が続けられるよう、皆様からのご協力をお願いいたします。  
募金は東日本大震災の被災地支援活動を行う NPO やボランティアの活動支援費として活用させていただきます。

活動支援金募金に関する最新情報は、下記ホームページをご覧ください。

<http://mvsc.jp/donate/>

### 百五銀行

百五銀行 津駅前支店

口座番号 (普) 855116

口座名義 ミエサイガイボランティアシエンセンター

※百五銀行全店の窓口・ATMからの振込手数料無料 (2012年3月末まで)

### ゆうちょ銀行

口座番号 00830-2-169995

口座名義 ミエサイガイボランティアシエンセンター



活動報告書

編集・発行：みえ災害ボランティア支援センター

発行日：2012年3月11日

発災直後写真提供：佐藤辰也

写真提供：先遣隊・ボランティアの皆さん

※本書掲載写真・記事の無断転載を禁じます。

この刊行物に対するお問い合わせは、下記までお願いします。

〒514-0009

三重県津市羽所町700番地アスト津3階

TEL：059-226-6916 (9:00-21:00)

FAX：059-226-6918

E-MAIL：center@mvsc.jp

URL：http://mvsc.jp/